

50周年特別会議

50th anniversary special conference

議長	後藤守
副議長	佐藤和明
運営幹事	内海和明 三浦正志

50周年実行委員会実行委員長	櫛引柳一
副実行委員長	荒生卓真・村上哲也
アドバイザー	小野寺正人・菊池武彦

総括事務局局長	前田光
アドバイザー	久木原満
運営幹事	佐藤純
会計幹事	塚形智志
委員	みんなで減災委員会・総務・PR委員会

記念誌作成部会会長	佐藤愛
アドバイザー	大矢貴幸
運営幹事	茂木寛和
会計幹事	日下部諭紀
委員	意識改革委員会・最幸なチームづくり委員会

祝賀会部会会長	城取良太
アドバイザー	阿曾義剛
運営幹事	梅津敬輔・堺正行
会計幹事	石川雄一
委員	共存共栄みんなの山鉾委員会・地域と共に誇れるまつり委員会

式典部会会長	庄司健
アドバイザー	和島公太
運営幹事	奥山翼
会計幹事	齋藤祐樹
委員	事務局・地域経営まちづくり委員会

運動指針策定会議議長	加藤成
副議長	大矢貴幸
運営幹事	若村光司
会計幹事	日下部諭紀
アドバイザー	小野寺正人・赤谷一典・櫛引柳一・菊池武彦

プライドグループ長	齋藤祐樹
委員	阿部修子・茜谷雅人・堤尚歴史・渋谷春樹

クリエイショングループ長	茂木寛和
委員	大和田基継・石井悟・高橋浩・徳田佳奈

コネクショングループ長	小野寺優
委員	久木原満・石川直紀・佐藤浩和・佐々木大祐

プロアクティブグループ長	國松真也
委員	大壁洋平・馬道雄一・高橋了・日下部諭紀

50周年記念事業運営会議委員	茜谷雅人・村上哲也・渋谷春樹・石井悟・齋藤洋一
副議長	大矢貴幸
運営幹事	若村光司
会計幹事	日下部諭紀
アドバイザー	小野寺正人・赤谷一典・櫛引柳一・菊池武彦



酒田みらいユースプロジェクト

SAKATA MIRAI YOUTH PROJECT

「3月例会」 syunen02

背景：

これまで地域に対し時代のニーズを捉えた運動を展開してきた当会議所は、明るい豊かな未来の実現を目指す地域の青年経済人の学び舎として創立50周年を迎えます。社会問題を俯瞰的に捉えた斬新な発想で可能性を導き出し地域の自立自活の課題に対しても先駆ける我々が郷土愛を持つ同士と共に未来を無限に描ける礎と次世代の若者が主体的に描く自由で創造的な未来を築いていくと共に、本年度50周年を迎えるにあたり、全てのメンバーの意識統一を図っていく必要があります。

目的：

【対内】

公益社団法人酒田青年会議所創立50周年記念式典に向けて、メンバー一人ひとりがその意味を理解すると共に、全メンバーで向かう意識を醸成する事を目的とします。

手法：

FACEBOOKカウントダウン動画配信にて参加推進を行います。
席次を円形にしてライブ感を演出します。また、入会年数で席次を分け、トークセッションの3つの内容で講師の向きを変えて話して頂きます。

公益社団法人山形青年会議所第60代理事長横山隆太君と公益社団法人酒田青年会議所第50代理事長阿部喜明君とのトークセッションを行います。

J Cが設立以来50年以上存続できる理由

- 1、J Cの強みとはなにか？
- 2、つながりを生むには？
- 3、継続させるために必要な事とは？

効果・成果：

現役メンバー96名・新入会員4名・合計100名

現役メンバー123名中、96名のメンバーに出席していただきました。この事業の目的は酒田青年会議所全メンバーの50周年に対する意味の理解と、意識醸成です。結果からみれば100%達成したとは言えませんが、9月30日の記念式典へ向けてまずは第1歩を踏み出せたと思います。良かったと思うことは、50周年に対する意識の検証が出来たことです。運動指針策定会議、50周年実行委員会、50周年記念事業に携わっているメンバーは、携わっていないメンバーに比べて当たり前前に意識が醸成されているものと思っておりましたが、結果はそうではなく、根本的な部分の見直しが必要であるということが分かりました。意識とはインサイドアウトで醸成されて行くので、携わっているメンバーは誰よりもその意識が高くなければなりません。勿論それは時間の経過とともに各会議体が活動しながら記念式典に向かって行けば成し得ることはあると思いますが、1つ1つの会議や事業を通してそれを更に行っていく必要があります。この酒田青年会議所の運動・活動を先輩諸兄が紡いで来ていただいたからこそ、私たちが存在しているわけです。発起原点を知らなければイノベーションはおこせない。時代のニーズを捉えるだけでなく、その1歩先、2歩先前を見てニーズを創り出して行くイノベーターとして50年に降も意識変革団体として存在するために、大切な1年が始まりました。その中心としての役目を職務分掌でいただいていることを再度自覚し活動して参ります。

「50周年実行委員会部会長会議」 syunen01

背景：

社会・地域問題を俯瞰的に捉えることで斬新な発想を持ち、さらなる可能性を導き出して地域の自立自活の課題に対し潔く先駆ける我々が、郷土愛を持つ同士と共に輝く未来を無限に描ける礎と次世代の若者が主体的に描く自由で創造的な未来を築いていく必要があります。

目的：

【対内】

50周年記念事業を成功に導き、次世代へと紡いでいくために50周年実行委員会を立ち上げる事を目的とします。

手法：

10回の部会長会議と3回の全体会議を行います。

部署	役職	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
理事長		阿部喜明	○	○	○	○	○		○	○	○	○
50周年特別会議	議長	後藤守	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年特別会議	副議長	佐藤和明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年特別会議	運営幹事	内海和明	○									
50周年特別会議	運営幹事	三浦正志			○							
50周年実行委員会	本部	実行委員長 楢引柳一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	本部	副実行委員長 荒生卓真	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	本部	アドバイザー 小野寺正人	○	○	○					○		
50周年実行委員会	本部	副実行委員長 村上哲也	○	○	○	○	○				○	
50周年実行委員会	本部	アドバイザー 菊池武彦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	総括事務局	事務局長 前田光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	総括事務局	アドバイザー 久木原満	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	総括事務局	運営幹事 佐藤純	○	○		○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	総括事務局	会計幹事 塚形智志	○			○						
50周年実行委員会	記念誌作成部会	部会長 佐藤愛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	記念誌作成部会	アドバイザー 大矢貴幸			○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	記念誌作成部会	運営幹事 茂木寛和	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	記念誌作成部会	会計幹事 日下部諭紀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	祝賀会部会	部会長 城取良太	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	祝賀会部会	アドバイザー 阿曾義剛	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	祝賀会部会	運営幹事 梅津敬輔	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	祝賀会部会	運営幹事 堺正行		○	○							
50周年実行委員会	祝賀会部会	会計幹事 石川謙一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	式典部会	部会長 庄司健	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	式典部会	アドバイザー 和島公太	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50周年実行委員会	式典部会	運営幹事 奥山翼	○					○	○	○		
50周年実行委員会	式典部会	会計幹事 齋藤祐樹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		合計27名	24	20	20	23	17	15	18	21	16	16

3月30日(水) 3月例会



「50周年実行委員会全体会議」 syunen01

効果・成果：

3月30日（水）第1回50周年実行委員会全体会議・酒田玉姫殿2階ブルーJ
出席者96名（76%）・新入会員4名・出席者合計100名
アンケート提出68名・アンケート未提出28名・新入会員アンケート提出4名・提出合計72名
問1合計1220点平均18点・問2合計1050点平均15点・問3合計835点平均12点
問4合計1130点平均17点・総合合計4170点平均61点

8月9日（火）第2回50周年実行委員会全体会議・酒田玉姫殿4階ラポーナ
出席者78名（61%）・新入会員10名・不明2名・出席者合計90名
アンケート提出70名・アンケート未提出8名・新入会員アンケート提出10名・提出合計80名
問1合計1350点平均19点・問2合計1420点平均20点・問3合計870点平均12点
問4合計1345点平均19点・総合合計4985点・71点

9月23日（金）第3回50周年実行委員会全体会議・希望ホール
出席者48名（38%）・新入会員4名・出席者合計52名
アンケート提出48名・アンケート未提出0名・新入会員アンケート提出4名・提出合計52名
問1合計1095点平均23点・問2合計1035点平均22点・問3合計750点平均16点
問4合計945点平均20点・総合合計3825点80点

3月30日（水）50周年実行委員会全体会議



「創立50周年記念誌作成」 syunen04

背景：

これまで諸先輩より紡いできて頂いた青年の運動を振り返る中で多くの気づきを得て、創始の志を改めて会員一人ひとりが心に落とし、次世代へとかげがえのない運動として紡ぎ続けていくことがこの地域にとって多くの変化をもたらす起点となると考えます。創立50周年を迎える本年、これまでの運動や活動を振り返り、地域への感謝と共に運動を紡いできた歴史を次世代へと継承していく必要があると考え本事業の実施に至りました。

目的：

【対外】
酒田青年会議所が実施してきた50年の活動及び運動を成果物として発信することを目的とします。

【対内】

酒田青年会議所が実施してきた50年の活動及び運動の成果を、今後行う事業の本質を見据えた運動展開を組み立てる羅針盤とし、成果物として残していくことを目的とします。

手法：

来賓：【直接配布】150名

創立50周年を記念し、これまでの50年を振り返る記念誌を発刊いたします。OB会員企業より広告協賛として各10,000円を集め、協賛企業に対して記念誌を送送させていただきます。記念式典にご来賓としてお越し頂く方に対しては協賛金と製作費用の差額で製作できる部数の中から無償にて配布します。現役メンバーに対しては一冊5,000円で販売をします。

効果・成果：

式典参加者配布 170部
現役メンバー配布 130部
企業協賛による配布 200部
合計部数 500部

「創立50周年記念式典」 syunen07

背景：

酒田青年会議所は明るい豊かな社会を築くために1967年に創立しこれまで多くの運動で市民の意識を変革し今年で50年を迎えます。これまで酒田青年会議所の運動を支えてくださった皆様に感謝し、そして諸先輩方の輝かしい歴史と業績を称え、今後我々がさらに力強く運動を展開していく方向性を示す必要があります。

目的：

【対外】
酒田青年会議所の50年の歴史を振り返り、今後のJ.C運動への理解を高めてもらうことを目的とします。

【対内】

50年の歴史を振り返り、お世話になった関係者の皆様に感謝するとともに、今後の酒田青年会議所の運動の方向性を共有することを目的とします。

手法：

【対内】

オールメンバーに対してメールで案内文を添付し送信します。（総括事務局）50周年実行委員会部会長会議の組織図を活用して情報伝達を直接行います。同期、同年代の繋がりの強いメンバーに直接電話掛けを行います。委員長より委員会メンバーへ参加の呼び掛けを行っていただきます。8月9日（火）、9月23日（金）の50周年実行委員会全体会議で1人1人の役割を明確にします。7月例会、8月通常総会、懇親会、各事業の場で一人ひとりに直接参加を促します。各委員会の委員会開催時に伺い参加を促します。

【対外】

・案内状を送付します。（総括事務局）

効果・成果：

9月30日（金）
50周年記念式典
場所：酒田市民会館希望ホール・大ホール
時間：16時00分～17時20分
現役メンバー89名・新入会員予定者8名
来賓287名・合計384名

「運動指針策定」 syunen06

背景：

当会議所は、これまで長きにわたり地域の課題と向き合いまちづくりに寄与してきました。メンバーも120名を超え、その活動は地域住民に広く認知されるようになり運動の広がりを見せています。愛する地域の存続のため、創設から50年にわたり取り組んできた運動を継承するとともに、未来を見据えた10年間のビジョンを明確にし、時代のニーズに合った市民を巻き込むまちづくりを実践して行く必要があります。

目的：

【対外】この先10年間で市民の共感を生む運動を進めるとともに、郷土愛を深め共に未来を創っていくという、酒田青年会議所の決意を認識していただくことを目的とします。

【対内】

地域の未来を見据え、今後10年間の組織の在り方や酒田青年会議所の運動の方向性を示す指針をメンバー全員が対外へ発信することができるように理解することを目的とします。

手法：6回の準備会議を行います。

部署	役職	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
理事長		阿部喜明	○	○	○	○	○			○	
50周年特別会議	議長	後藤守	○	○	○	○				○	1
50周年特別会議	副議長	佐藤和明		○			○	○	○		1
指針策定会議	議長	加藤成	○	○	○	○	○	○	○	○	
指針策定会議	副議長	大矢貴幸	○	○	○	○	○	○	○	○	1
指針策定会議	運営幹事	若村光司	○	○				○			
指針策定会議	会計幹事	日下部諭記	○	○	○	○	○	○	○	○	1 1
指針策定会議	ブライドグループ	グループ長	齋藤祐樹	○	○	○	○	○	○	○	1 1
指針策定会議		阿部修子	○			○	○	○			
指針策定会議		西谷雅人	○	○	○	○	○	○			1 1
指針策定会議		渋谷春樹		○	○	○	○	○	○	○	1 1
指針策定会議		堤尚史	○	○			○				
指針策定会議	クリエイショングループ	グループ長	茂木寛和	○	○	○	○	○			1
指針策定会議		大和田基継	○	○	○						1 1
指針策定会議		石井悟									
指針策定会議		高橋浩									
指針策定会議		徳田佳奈									1
指針策定会議	コネクショングループ	グループ長	小野寺候	○	○	○					1 1
指針策定会議		久木原満	○	○	○	○	○				1 1
指針策定会議		石川直紀	○	○	○	○	○	○	○	○	1 1
指針策定会議		佐藤浩和									1
指針策定会議		佐々木大祐	○	○				○			
指針策定会議	プロアクティブグループ	グループ長	國松貞也	○	○	○	○	○	○	○	1 1
指針策定会議		大藤洋平	○	○	○			○	○		1 1
指針策定会議		馬道雄一									1
指針策定会議		高橋了									
		合計26名	20	20	16	17	14	14	8	16	15

未来ビジョン

我々は「共感のスパイラル」が生む無限の可能性を信じ、地域と一体となって共にあゆみます。

■時代に柔軟な組織構築

自己成長と組織進化を求め、時代に柔軟な組織構築を行います。

■地域を誇れる人財の育成

歴史感に裏打ちされた地域の魅力を発信し、誇りを持ち行動できる人財を育成します。

■新たな価値の創造

多様な価値観から生まれる共感を創造し、活気溢れるまちへと導きます。

■持続可能な地域社会の実現

時代の変化や多様なニーズを的確に捉え、協働を基礎とするまちづくりを行います。

「共感のスパイラル」が生む無限の可能性

我々が行う活動・運動の効果を増幅するには、それがどれだけ市民・町民を巻き込んで行われるかにかかっています。市民・町民に内在する「無関心」を「関心」に変え、一人ひとりがこの地域の未来を創り上げる主役であるという意識を持つことが、地域発展の原動力となります。

酒田青年会議所の想いに「共感」し、地域社会への「関心」を持ち、自ら行動を起こす。またその行動への共感者が生まれる。初めは小さな変化も、共感者が新たな共感者を呼び込むこの「共感のスパイラル」は徐々に多くのひとりを巻き込んで巨大化していきます。

一人ひとりが発信する運動自体は、小さな変化しか起こせないのかもしれませんが、しかし、その小さな変化が「共感のスパイラル」として大きな運動に昇華していくのであれば、酒田青年会議所は、積極的に地域住民・地域社会に対して様々な角度からアプローチをし、その変化を促す起爆剤となるべく活動・運動を継続し、あゆみ続けます。

1967年 酒田青年会議所設立趣意書より

「青年の進むべき行動目標をつねに事無く、世界組織の一日となって全国の仲間たちと交流を図り、地域開発のために貢献することを期すものであります」

JCI 公益社団法人 酒田青年会議所
〒998-0858 山形県酒田市新町19-25
TEL.0234-24-9192 FAX.0234-22-8438
E-mail:info@sakatajci.net
http://www.sakatajci.net

50年代運動指針 共にあゆむ

50th Anniversary Movement guidelines



公益社団法人 酒田青年会議所

酒田青年会議所未来ビジョン

酒田青年会議所は、50周年を迎え、次の10年に向けての運動指針を策定しました。地域発展に向けた道筋を創り、それが持続可能な地域社会の実現につながる「螺旋的発展の仕組み」を構築します。

1.時代に柔軟な組織構築

時代の先を見据えて活動・運動を行っている我々にとって、組織構築にも柔軟性が必要です。すべての会員が今以上に高い意識を持ち、地域に対してより強いインパクトのある事業を展開していくために、社会構造の変化により生まれた多様なニーズに対応し、より活動しやすい組織を構築します。

自己成長と組織進化を求め、時代に柔軟な組織を構築します。

3.新たな価値の創造

先人達から受け継いだ歴史文化を受け継いでいる我々は「歴史の精神」という誇りある地域性を継承しています。日まぐるしく変わる社会情勢の中で、自らの手で「今」を変えていく。百年ごころある価値の源泉であり、現実に目にすることなく実践し続ける事で、また見えない新たな価値を創造します。

多様な価値観が共存する社会を創造し、活気溢れるまちへと導きます。



2.地域を誇れる人財の育成

我々の地域には、歴史や文化、公益の精神といったかけがえのない財産が多くあります。まちの発展のためにも、一人ひとりが誇れる伝統文化を学び、伝えていく必要があります。私たちの運動が共感を呼び、郷土に対する関心を高め、共に未来を創造する人財を育成します。

歴史感に裏打ちされた地域の魅力を発信し、誇りを持ち行動できる人財を育成します。

4.持続可能な地域社会の実現

我々の住む日本そしてこの地域は、大きな変革期にあります。能動的な行動により市民・町民からの共感を得て協働を生むことで、地域の力を結集してイノベーションを起こし、持続可能な地域社会を実現します。

時代の変化や多様なニーズを的確に捉え、協働を基礎とするまちをつくりまします。

● 1.時代に柔軟な組織

郷土愛を醸成し、人それぞれの「地域」という根を上げ、未来を創造する。そしてそれらを融合し、革新的な未来を切り拓く。

創始の想いを胸に For the next decade (次なる10年へ)

「50周年記念事業」 syunen03

背景：

グローバル化やIT化の進展、また少子高齢化による人口構成の変化に伴い、これからの未来を取り巻く社会環境も大きく変化していきます。どんな困難が待ち受けているとも、「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」が漲る社会に向けて、思い描いた未来を創っていく若者、子供たちを地域で育てていく必要があります。

目的：

【対外】

世界の課題とその課題の原因を知るとともに、先進国と発展途上国の違いを知り、住み暮らすために必要なことを考えることを目的とします。

【対内】

まちの未来は自分たちが創っているという気概を持つとともに、子供たちと一緒に国際感覚を養うことを目的とします。

手法：

23回の50周年記念事業運営会議を行います。酒田市内246か所にポスター・チラシを設置しました。酒田市内全ての小・中・高等学校にご協力を頂きます。事業毎に毎回8か所にプレスをかけます。(河北新報酒田支局・朝日新聞酒田支局・荘内日報酒田支局・読売新聞酒田通信部・山形新聞酒田支社・毎日新聞酒田通信部・YTS庄内支社・NHK鶴岡支局・YBC酒田支社・TUY・SAY庄内支社) 事業毎に毎回酒田みらいユースプロジェクト父兄に案内文を郵送します。事業毎に毎回オールメンバーにメールとフェイスブックを使って参加推進します。事業説明会と結団式は他LOMへの参加推進を行います。酒田みらいユースプロジェクト選考委員は、理事長、副理事長、専務、議長、副議長で組織します。2016年度からスタートした国連から付託を受けた事業である世界を変えるための17の目標、UNSDGsを事業のベースにおきます。事業説明会にて、UNDP国連開発計画日本駐日代表近藤哲生氏に基調講演をして頂き、公益社団法人日本青年会議所国際グループ世界に貢献する日本創造会議副議長後出雅敏君にUNSDGs認知向上プログラムをして頂き、JCI JAPAN青少年国連大使初代田崎陸君に講演をして頂きます。結団式では、2011年度JCI会頭・日本JCセネターズクラブ会長・JCI基金理事長原田憲太郎先輩に基調講演をして頂きます。酒田市長意見交換会では丸山至市長に協力して頂きます。伝達力を高めるトレーニングでは、当会議所顧問小野寺正人君に協力して頂きます。フィリピン・マニラ渡航事業では、JCIマニラ、JCIマカティ・プリンセス・ウルドハメンバーに協力して頂きます。

効果・結果：

4月29日(金)～5月29日(日)
酒田みらいユースプロジェクトメンバー募集期間
7名の選出を行いました。

5月15日(日)

酒田みらいユースプロジェクト事業説明会
場所：酒田市総合文化センター1階
時間：13時00分～15時30分
現役メンバー38名・新入会員予定者3名
関係者8名・一般50名・合計99名

6月12日(日)

酒田みらいユースプロジェクト結団式
場所：ホテルリッチ&ガーデン酒田スカンジナビア
時間：13時30分～16時00分
現役メンバー38名・新入会員予定者2名
関係者20名・一般12名・合計72名

6月20日(月)

酒田市長意見交換会
場所：酒田市政役所第一応接室
時間：16時00分～17時00分
現役メンバー4名・関係者18名・合計22名

7月18日(月)

伝達力を高めるトレーニング
場所：青年会議所会館
時間：14時00分～16時30分
現役メンバー36名・新入会員予定者2名
関係者14名・合計52名

8月15日(月)～8月18日(木)

フィリピン・マニラへの渡航事業
場所：フィリピン・マニラ
現役メンバー7名・新入会員予定者1名
関係者357名・一般2名・合計367名

11月20日(日)

酒田みらいユースプロジェクト解散式
場所：青年会議所会館
時間：19時00分～20時00分
現役メンバー22名・新入会員予定者4名
関係者14名・一般1名・合計41名

5月15日(日) 事業説明会



6月12日(日) 結団式



6月20日(月) 酒田市長意見交換会



7月18日（月）伝達力を高めるトレーニング



8月15日（月）～8月18日（金）
フィリピン・マニラ渡航事業



「特別授業」syunen08

背景：

グローバル化やIT化の進展、また少子高齢化による人口構成の変化に伴い、これからの未来を取り巻く社会環境は大きく変化していきます。この50年間、時代のニーズを捉えた運動を展開してきた当会議所は、世界の課題を知り地域の課題を考え、不確実性が増す社会の中で自分の未来は自分で切り拓くことができる次世代の若者・子どもたちを育てていく必要があります。

目的：

【対外】

世界の課題とその課題の原因を知るとともに、先進国と発展途上国の違いを知り、私たちが住み暮らすまちの未来に自分が出来ることを知ることを目的とします。

【対内】

当会議所設立から半世紀青少年育成事業を行ってきた団体としての気概と覚悟を持つとともに、市民意識変革団体であるということ再認識することを目的とします。

手法：

UNSDGs認知向上プログラムを使用し、国際社会の中で起きている問題について体験、説明を行い、国際社会の現状について理解して頂きます。UNSDGsについての説明を行い、国際協力の必要性と今後自分達が出来た事を考えてもらいます。事業終了後に宿題を家族と一緒に取り組んでもらうことで、児童のプログラムに対する興味と理解度を深め、家族に対してもUNSDGsについて認知して頂きます。

効果・結果：

9月5日（月）

酒田市立富士見小学校特別授業

場所：酒田市立富士見小学校2階オープンスペース

時間：13時50分～14時35分

現役メンバー17名・新入会員予定者1名

関係者17名・一般60名・合計95名

9月21日（水）

酒田市立泉小学校特別授業

場所：酒田市立泉小学校1階ランチルーム

時間：14時30分～15時15分

現役メンバー18名・新入会員予定者3名

関係者22名・一般77名・合計120名

9月5日（月）・9月21日（水）
特別授業



「50周年記念式典発表会」 syunen09

背景：

グローバル化やIT化の進展、また少子高齢化による人口構成の変化に伴い、これからの未来を取り巻く社会環境は大きく変化していきます。この50年間、時代のニーズを捉えた運動を展開してきた当会議所は、世界の課題を知り地域の課題を考え、不確実性が増す社会の中で自分の未来は自分で切り拓くことができる次世代の若者・子どもたちを育てていく必要があります。

目的：

【対外】
世界の課題とその課題の原因を知るとともに、先進国と発展途上国の違いを知り、私たちが住み暮らすまちの未来について再認識することを目的とします。

【対内】

当会議所設立から半世紀、青少年育成事業を行ってきた団体としての気概と覚悟を持つとともに、市民意識変革団体であるということを再認識することを目的とします。

手法：

チラシ（チケットサイズ）5,000枚配布します。
子どもたちのプレゼンテーション内容は、フィリピン・マニラ渡航事業を含め、8月27日の公開委員会から作成して行きます。（資料作成日8月30日（火）～9月29日（木）の間に2回）
発表方法は模造用紙を使用します。開会宣言・内容説明・総括・閉会宣言はパワーポイントを使用します。パワーポイントと子どもたちの発表を切り替えてスクリーンに映し出します。映像は事業の本質を伝えられる内容にします。9月30日日本番までの練習は、酒田みらいユースプロジェクトメンバー、父兄とスケジュールを調整して最低2回は行います。

効果・成果：

9月30日（金）
50周年記念式典発表会
場所：酒田市民会館希望ホール・大ホール
時間：17時30分～17時50分
現役メンバー89名・新入会員予定者8名
関係者24名・一般387名・合計508名

9月30日（金）50周年記念式典発表会



11月20日（日）解団式



各業界トップの外部協力者



UNDP 国連開発計画
 公益社団法人 日本青年会議所 国際グループ 世界に貢献する 日本創造会議
 JCI JAPAN 少年少女国連大使
 2011年度JCI会議 日本JCIセクターズ クラブ会長 JCI基金 理事長
 酒田市長
 公益社団法人 酒田青年会議所

日本駐日代表 近藤 哲生氏
 副議長 後出 雅敏氏
 初代 田崎 陸氏
 原田 憲太郎先輩
 丸山 至氏
 顧問 小野寺 正人氏



未来の酒田に対する意識の醸成



意識の高い青少年の選出

募集について
 【募集期間】2016年4月22日(金)～5月29日(日)
 【募集方法】ポスター・チラシ・案内文を設置致します。
 【対象者】酒田市内の小学校5年生～高等学校3年生
 【定員】7名限定(全ての事業に参加出来る小学校5年生～高等学校3年生までの中で7名募集します)

応募方法
 1、募集チラシ裏面の応募用紙(公益社団法人酒田青年会議所宛)に必要事項を記入して下さい。
 2、「酒田市の現状の問題点」について、学生ご自身の考えを原稿用紙400文字程度まとめて下さい。
 3、上記1と2の書類を、FAXまたは郵送にて公益社団法人酒田青年会議所宛にご応募下さい。
 【50周年記念事業説明会開催】より具体的な内容説明と質疑応答をさせていただきます。
 ポスター・チラシと一緒に50周年記念事業説明会案内文も設置して、参加を促します。
 【選考】募集人数7名を超えた場合酒田みらいユースプロジェクト選考委員で選考します。



阿部理事長からのコメント

本年度、創立50周年という大きな節目を迎え、地域のために取り組んできた諸先輩の運動を振り返るとともに、さらにこの先10年のために新たな運動指針展開について、記念式典と記念祝賀会を通して、感謝と決意をお伝えすることが出来ました。50周年実行委員会においても、若手メンバーが中心に準備を進めることで、創立60周年に向けての人財育成にも力が注がれたと思います。また、50周年記念事業である酒田みらいユースプロジェクトでは、子ども達が社会に積極的に関わりたいとする態度の醸成に役立つ機会を創り上げることができたと思います。ユースメンバーは「自分たちを変えたい」という想いで事業に取り組み、メンバーはサポーターに徹することで、子ども達は自らの手で「生き抜く力」と「生かされていることへの感謝」を掴み取りました。子どもと大人が、共にまちの未来を創るという想いで、新たな地域のつながりを生み出すことができ、青少年育成事業の新たな可能性を切り開いたと思います。

意識改革委員会

委員長	堤尚史
副委員長	日下部論紀・高橋浩
運営幹事	相蘇由佳・伊勢優
会計幹事	太田さおり
委員	加藤成・佐藤貴伸・長南睦・保科佑児・矢野あかね・和嶋勘一郎・若村光司

「2月例会」



■背景：当会議所は近年多くのメンバーを向え入れると共に、ブロックや東北地区・日本本会への出向で多くの学びや経験を得て多彩かつさまざまな事業を行う事ができるようになりました。しかし、例会や各事業での会員の出席率は、全会員の7割を超えることもなくなり、会員の意識の低さが懸念されるとともに、近年LOMを牽引してきた多くのメンバーが卒業を迎え組織力の低下が危ぶまれています。未来を見据え、LOMの人材育成の向上と会員増員の両軸を考えた会員の意識改革が必要です。

■対外目的：無し。

■対内目的：当会議所の運動が地域社会を発展させる原動力となる事を認識すると共に、会員拡大の重要さと人材育成の意識を向上することで、結束力をもち運動に繋がる事を認識する事を目的とします。

手法：例会を通じLOMの過去や現状を知り、そのうえで私達がかとるべき行動とは何かを会員全員で学び、LOMの組織力向上を図るための現役メンバー・新入会員の意識改革。

■事業構成

平成28年2月24日(水) 19:00～21:00に酒田玉姫殿2Fブルージュで実施しました。
酒田青年会議所現役メンバー 89名(72.3%)、新入会員予定者及び候補者 6名
合計 95名

■効果、成果：酒田青年会議所現役メンバー 89名(72.3%)、新入会員予定者及び候補者 6名
合計 95名

当会議所の運動が地域社会を発展させる原動力となる事を認識すると共に、会員拡大の重要さと人材育成の意識を向上することで、結束力をもち運動に繋がる事を認識する事。また、メンバーが青年会議所の魅力を再認識して組織力強化と会員拡大推進の意識統一を図ることで、50年続く当会議所の未来を担う人材を増やすための意識改革につなげました。

「異業種交流会」

異業種との交流を深めることによりJAYCEEの自覚を持ち新たなメンバーを迎える機会を創出しました。委員会メンバーのみならず、多数のメンバーから助けて頂き、新入会員の入会に貢献していただきました。



第1回新入会員セミナー 第2回新入会員セミナー 第3回新入会員セミナー

■背景：2月例会では青年会議所運動を推進して行くには、会員増員運動と会員の資質向上の両方が不可欠であると学びを共有しました。新たにメンバーに加わらんとする会員に、会員としての責任感と仲間と協動的に学び合う機会を提供する事は、地域と共にある団体として内的組織の成長を高めるために必要です。そのために、新入会員に対し本セミナーの実施が必要です。

■対内目的：新入会員や現会員に対し、青年会議所の基礎知識を身につけさせると共に、今後の青年会議所活動に対する意識向上を図ることを目的とします。

■手法：

【新入会員セミナー趣旨】

当会議所は50年にもわたる歴史があり、「明るい豊かな社会」の創造を目指し地域社会で運動してきました。通年行われている会員拡大活動の活躍もあり、毎年新しい新入会員を迎え入れ、40歳までの限られた年齢のなかで絶えず組織団体として循環を図り、地域社会のリーダーとしてリーダーシップを図り、率先して地域・市民を巻き込んだ形で社会開発事業を展開しています。また、企業・家庭の理解を得た上で活動している事も事実です。このような環境を踏まえたなかでこれからも継続的に地域社会に信用とされ必要とされるためにも、学び舎として日々の研鑽や仲間と協動的に学び合う感情交流運動を継続的に展開する必要があるとともに、個の成長を組織の成長につなげなければなりません。そのためには我々は、新たな会員を迎え入れ、積極的に自ら成長を求め地域の発展に参画せんとする意識を伝えることが重要だと考え当新入会員セミナー事業実施に至りました。

■効果、成果：青年会議所を知り正しく認識したことで様々な諸問題に対し目的をもち自ら進んで活動できる意識醸成。また、地域のリーダーとしての立ち位置から地域と共にありつづけなければならない意識醸成。そして、仲間と共に学び合う必要性・重要性を深く認識していただきました。

「信」

「義」

「一体」



「11月例会」

■背景：我々が住み暮らす地域は当会議所などさまざまな団体が地域活性化に取り組み、留めることのできない人口減少問題やまちの課題に対し向き合っています。しかし、市民のまちづくりへの無関心さも影響し、高校卒業後庄内地域に残る若者は県内の他価値観を真摯に受けとめ、魅力溢れるまちへ変革し、次世代を担う若者と協働し地域と比べても低い割合となり消滅都市にも挙げられています。今一度、若者の多様な価値観を真摯に受けとめ、魅力溢れるまちへ変革し、次世代を担う若者と協働した事業展開を描く意識醸成を図る必要であります。

■対内目的：次世代を担う若者の地域に対しての考えを知るとともに、次世代の担い手と協働した社会参画への意識醸成を目的とします。

■手法：【11月例会テーマ】 ～未来へ繋ぐ次世代の子カラ～
2016年11月9日(水) 19:00～21:00に酒田勤労者福祉センター 3階多目的ホールで実施しました。
全体を3部構成にして自らが住むまちの現状を学び、青年会議所の取り組みや考え方を学び、新入会員がこれから考えていくまちづくりを発表しました。

■効果、成果：若者と協働したまちづくりの在り方についてメンバーの意識醸成につなげました。また、新入会員がゼロから事業構築し皆で連携して目的達成に至るまでプロセスを学んでいただいたことで、地域を主体的に牽引するリーダーとしての意識醸成につなげました。



【委員長から一言】

J C 仕事 家族といういろいろ大変な思いもありましたが、多くのメンバーから支えてもらいました。委員会メンバー副理事長、室長、時には顧問や監事他の室の副理事長や室長、理事の皆様からもアドバイスをもらいました。本当に感謝申し上げます 1年間ありがとうございました。

【室長から一言】

今年度、継続事業であります会員拡大委員会としましては、はじめ2月に内部例会を当会議所の運動が地域社会を発展させる原動力となる事を認識すること、そして会員拡大の重要さと人材育成の意識を向上することで、結束力をもち運動に繋がる事をメンバーに認識していただく事を目的に実施しました。そこで多くのメンバーにLOMの組織力強化と陣在育成の重要さを認識していただき結束力を強めた酒田J Cの活動、運動が地域発展に繋がっていると理解を深められたと感じました。そして、年間通しての会員拡大活動に今年度は仮配属体制を取り込み、より早くメンバーと親密な関係を築くとともに早い段階での運動に関する意識醸成を行いました。結果、各委員会・新入会員に目的を捉えることに対しての意志統一に繋がったと感じられます。そして、新入会員をターゲットとしたセミナーを全三回に分け実施し、学び舎として仲間と協力的に学び合う感情交流運動で人とひとが相乗し合える運動体を形成しました。また、11月には新入会員が通年実施する例会では、地域を牽引する志をもった新入会員が地域発展に新たな価値を創出する事業を展開し、現役メンバーや新入会員に個々の意識改革を与え能動的な市民意識変革運動の構築に繋がりました。全体を通じ、継続事業である会員拡大活動で、自ら住む地域に誇りを抱く人材の和を上げ、自己啓発を地域発展への意識改革に変革し、夢と希望に満ちた持続可能な地域社会の実現に繋がりました。

【副理事長から一言】

意識改革委員会は、会員の増強と会員資質の強化の両軸を計画的に行い継続的に成果もたらされる仕組みづくりに取り組みました。1年間を通じて感じる事は、委員長を本当に多くの仲間が支えてくれた事です。青年会議所活動は個人で志を高く掲げても、成長がなかつたらいいものです。しかし、仲間との意見のぶつかり合いや、事業を作り上げていく過程の中に、必ず他人との関わりがあり、成長につながります。人はひとでしか磨かれず青年会議所ではよく言います。地域を想う仲間を増やしていく運動が拡大運動です。青年会議所が生まれてから世界中で絶対欠かさず行われている基本運動です。今年も多くの新入会員を迎え入れ、仲間を増やす事が出来ました。新入会員セミナーでは、市長との意見交換や山登りを通じて青年会議所という事に触れ、11月例会を企画する中で、出会った仲間と友情を育み、まちの未来を語り、各自が主体的に取り組み事業をやり遂げました。きっと次年度以降に、主たるメンバーとして、酒田青年会議所を牽引していく人材ばかりだと確信しております。

自己成長を求め気なしに活動する中で、先輩や仲間に魅せられいつの間にか地域のためにと行動し続ける青年会議所だからこそ、地域に必要であり、会員一人ひとりが地域を担う青年経済人だと自覚し、我々の活動が地域を活性化させていくと信じて仲間を集い、覚悟と秩序をもったJAYCCEの実行力とプライドで地域を輝かせる創造的な未来を築いていけると信じています。

最後に、本当に最後まで委員長に寄り添ってくれた室長、PC作業や漢字が苦手な委員長に寄り添ってくれた委員会メンバー、今年入会してくれた新入会員、仮配属でサポートしてくれた各委員長をはじめとする各委員会メンバーに感謝するとともに、ぶつかり、悩みながらも最後まで委員長として尽力してくれた堤委員長に感謝申し上げ、担当副理事長所見とさせていただきます。

【理事長からひとこと】

会員拡大の成功とは、1つは「内的組織としての成長」であり、もう1つは「J C運動の社会の評価と結果に基づく共感と共鳴の和の広がり」です。本年度は15名の新たなメンバーを迎え入れることが出来ました。拡大とは決して単年度の入会者数で決まるものではありません。今年度の新入会員メンバーは全員参加で11月例会を成し遂げ、その内容も行政や若者といった市民を巻き込むなど、行動力と和の心を兼ね備えた人材に成長したと実感しています。社会に変革をもたらすのは常に個人の意識と行動力からということをお忘れはいけません。J Cという組織に埋没することなく、個人参加の参加意識と、仲間と共に自ら協動的に学び合う感情交流、この両輪がいつも互いに相乗し合う運動体を今後も形成していく必要があります。

最幸なチームづくり委員会

委員長	若村峰沙（勇）			
副委員長	佐々木力（義）			
運営幹事	早坂舞（礼）	堀伸（義）		
会計幹事	設楽稔（礼）			
委員	茂木寛和（義）	佐藤一佳（礼）	佐藤聡（礼）	菅井亮（誠）
	佐藤大輔（義）	野口優（礼）	笠松治（礼）	

7月事業

『チームの能力を最大限に発揮できるリーダー育成事業』

背景：愛する我が郷土も消滅可能性都市に名を連ね、人口構造の変化と長寿化に伴い主力となる働き手は育児と介護の同時化・仕事と生活の両立に迫られ、個々に過度な負担と様々な制約が強られることが予想されます。地域における主力世代であると同時に、青年経済人として様々な場面のリーダーたらんとする我々は、ワークライフバランスの視点をういたチームマネジメントの基礎となるコミュニケーション能力を更に高めていく必要があります。

目的：コミュニケーション能力の向上を図り、会員が自分の会社や家庭に取り入れ行動することを目的にします。

手法：チーム力を最大限に発揮できる人材育成セミナーの開催

効果、成果：ヒアリングシートによる取組宣言検証で事業後の取組み状況において仕事、家庭、JCの間でのコミュニケーション能力向上を調査・確認した結果、事業による取組を継続するが96%、セミナーは役に立ったかが100%の結果から目的を達成できたことと検証できました。仕事、家庭、JC活動・運動を維持継続するためには、ワークライフバランスを視点においたチームビルディングの構築を求めが必要があり、チームビルディングの構築にはコミュニケーションのとれた人間関係が仕事、家庭、JC活動・運動に繋がって行くことを現会員及び新入会員に認識していただくことができました。ヒアリングシートによる検証結果で、取り組んでからの感想の部分から、実際に7月事業を通して伝えなかった目的を自分の会社や家庭に取り入れ行動したこと、96%の会員から今後も会社や家庭の間でのコミュニケーションを継続する意志を確認できたことで目的達成に至りました。

付属的成果、後日談

チームマネジメントの基礎となるコミュニケーション能力を更に高めていくために、「知る」をキーワードに、自分を知り、自分以外の他者を知り、受け入れるとすることを脳科学的な切り口でアプローチで学び、多様な価値観を理解したことで、個々に異なる能力をいかに最大化させてチームとして成果をあげるのか？我々委員会メンバー全員で学びを元に結果を残し、今後につなげることができました。



10月公開例会

『自分らしく生きる～共にある未来へ～』

背景：「ワークライフバランス」という言葉は、人口構造の変化や少子化・高齢化が進行する社会への問題意識を背景に、一般に広く知られるようになってきました。しかし、その考え方が正しく理解され、本当の意味で普及しているかというと、誤認や誤解も含めて、まだ十分ではないのが実状です。時代が如何に変化しようとも、個人の自立と他者との調和を前提とした、しなやかで強い、持続可能な地域を実現していくことが必要です。

対外的目的：制度や仕組み・環境に依存せずに「自分らしく生きる」という視点を通じて、ワーク・ライフ・バランスを正しく理解する機会とします。

対内的目的：制度や仕組み・環境に依存せずに、「自分らしく生きる」という視点を通じて、個の選択と公の調和を実現できる地域のリーダーの在り方を理解する機会とします。

手法：堀江貴文氏基調講演、パネルディスカッション

成果【対外】

制度や仕組み・環境に依存せずに「自分らしく生きる」という視点を通じて、ワークライフバランスを正しく理解する機会とします。

①講演内容としては、過激な言動や偏った意見が目立ったが、来場者に多様性の必要性を認識していただくには、それと対比するインパクトのあるものをぶつけることが最も効果的な手法のひとつであり、「自分らしく生きる」という点では多くの市民に発信する事が出来ました。アンケート結果から「周りに捉われず、自分の考えを人に伝える自信をもって生きたいと思いました。」や「今まで常識に捉われて生きてきたが、チャレンジする勇気をもつことができました」などこれまでの来場者自らの環境を意識変革することができました。

②ワークライフバランスの発信→多様性を受け入れる→真のワークライフバランスの発信（自分らしく生きる）当初委員会で計画したこのスキームをほぼ実現することができました。アンケートで他県から来場していただいた方に、地域の閉鎖感が日々感じられる意見があり、もともと保守的で多様性を排除しやすい地域では、それと対比するインパクトをぶつけることが効果的であるし、必要ことがアンケートから検証できました。

成果【対内】

制度や仕組み・環境に依存せずに、「自分らしく生きる」という視点を通じて、個の選択と公の調和を実現できる地域のリーダーの在り方を理解する機会とします。

①自己満足や一人よがりにならず、自分がやりたいことを遂行するにはニーズがあり、協力者が必ず必要であることを深く理解できました。

②地域のリーダーとして自らの決断により既存の制度や取り組みに捉われず、未来を切り開く重要性を地域に伝えることが必要とされる現在、自分らしい生き方を追求し、他者との共存に重きをおくことでこれからの不確実性の増す社会において重要な価値観であることをアンケートから検証されました。



若村委員長 所見

7月事業では、チームの能力を最大限に発揮できるリーダー育成事業に取り組み、ここでは様々な場面のリーダーたらんとする我々が、「ワーク・ライフ・バランス」の視点を以てチームマネジメントの基礎となるコミュニケーション能力を更に高め、自分を知り、他者を知ることで、人との違いを間違いとして捉えるのではなく、それらを受け入れて、更にその違いを掛け合わせることで、より強い成果を生み出すという視点を理解し、リーダーとして、個々の能力を最大限に発揮できるようにマネジメントできるきっかけを学べました。「多様性」を受け入れるための脳科学からのアプローチは、会員からも「すごくためになった!」「次年度以降の手帳に載せて欲しい!」などの意見を頂き、実際にJCや家族・会社の仲間との関わり方が変わり、関係性や効率が向上したという報告を受けることができてうれしく思います。10月公開例会では、未だ進まぬ「ワーク・ライフ・バランス」について実現するため、「ワーク」か「ライフ」か、二項対立な議論にせず、新しい視点からアプローチすることができたと思います。『自分らしい生き方』=「ワーク・ライフ・バランス」の実現。堀江氏の過激な言動や価値観を目の当たりにしたことで、「多様性」を意識し、自分と違う自分の価値観の再確認ができ、自分らしい生き方は何なのか?今まで改めて考えたことがない「自分らしく生きる」について向き合ってもらえたことができました。制度や仕組みに依存したり、他者や環境のせいにならずに今までの常識の枠にとられない新たな価値を模索したり、自分の在り方や価値観を見つめ直してもらったことで、「自分らしく生きる」事を意識して見らい、パネルディスカッションとエンディング映像から、自分らしく生きるとは、独りよがりや自己満足ではなく、そこには必ずニーズや協力者が必要であり、他者との関わり方が重要であると感じてもらえたことができました。1000名を超える多くの市民に意識変革の機会の提供ができたこと、酒田青年会議所のプランディングにつながる例会ができたことをうれしく感じております。委員会運営としても、ランチミーティング導入や会議2時間制を目標に取り進むことができ、様々な個性や経験・価値観を持つメンバーが、一人掛けることなく、個々に持つ能力を最大限に発揮することができ、我々委員会が実際に最幸せなチームづくりができてロールモデルとなれたと思います。そして、我々の発信を通して、個々が幸福を感じ誰もが心豊かな未来を描き、他人を思いやり互いに支え合ことでチームが生まれ、チーム内でコミュニケーションの質を高めることで生産性が向上し円満で結束力に優れたチームが地域に溢れ、夢と希望に満ちた持続可能な地域社会が実現できると確信しております。最後に、今回委員長という機会を与えていただいた事に本当に感謝しております。そして、何よりも最幸なメンバーでチャレンジできたことを誇りに思います。今まで支えてくれたメンバーのみなさん・室長・副理事長・そして家族に心から感謝申し上げます!本当にありがとうございました!

阿蘇室長 所見

今年度、最幸なチームづくり委員会の例会・事業としましては、7月にチーム力を最大限に発揮できるリーダー育成事業を実施しました。そこで、コミュニケーションの必要性・重要性を学び関心をもっていたことで、メンバー内の内的組織向上を図るとともに、学んだ事柄を会社や家庭に取り入れていただく事でコミュニケーション能力を活かしたチームビルディングの構築を行いました。そして、10月には、「自分らしく生きる〜共にある未来へ〜」をテーマに公開例会を実施しました。年間通して委員会を重ね考案した、ワークライフバランス=自分らしく生きる、ことについて広く地域に伝えるとともに、内部に対しては、地域のリーダーとして、主体性・協調性を理解し行動することは重要であることを認識させることが実現できたと思います。その他に、委員会で模索したヒアリングシートやチケット販売に関しては、創意工夫のある発想力豊かな手法であり、次年度以降も、前例に捕らわれない新たな手法を委員会で計画し実行することで大きな効果を出してほしいと思います。事業・例会・委員会活動の全体を通じ、委員長を筆頭に委員会メンバーがチーム力を発揮した最も効率的な運営で好環境を生み出し、議論を重ね、自己啓発をもち地域発展に繋げた結果、人とひととの弛まない連携が地域活力につながり、夢と希望に満ちた持続可能な地域社会の実現ができたと思います。

阿曾副理事長 所見

最幸なチームづくり委員会は、2本の大きな事業を基軸とし地域を牽引するリーダーとして凛然と迎える未来を主体的に築く未来として切り開いていくために、変化対応能力を持つチームマネジメントを身につけ内的組織の成長に努めて参りました。7月事業では、会員のチームマネジメント能力向上を基軸としたコミュニケーション力の向上を図る事業を行い、多様な手法の中で、まずは自分を知り、自分とは違う他者の思考を学ぶ相手を認め、多様で相手にあったコミュニケーション図ることでチームとしてチームとしてまとまっていく事が出来ると学びました。また、10月公開例会として3名の講師をお招きし、制度や仕組み・環境に依存せず、「自分らしく生きる」という視点と公の調和を実現できる地域のリーダーの在り方を理解する事を学びました。1000名を超える参加者の中、感じ取った意見は多種多様の中のおのの自分の目指す自分らしい未来を主体的に描きアンケートを通じて意見を頂けたことで、自らが主体的に描く未来を想像して頂けたと確信しております。全体を通じて、不果実性が増す時代の中で、他者との違いを認め、自分らしい生き方を一人ひとりが考え、自分にあった生き方を選択し、新たな時代を生きていく事が必要だと個々が意識しなくてはなりません。我々、一人ひとりが地域社会との深い関わりを自覚し、「選択と結果を受け止める覚悟」と「地域社会への思いやり」を持ち、地域や社会と「しなやかに強いチーム」として有機的につながる事で、酒田・遊佐をより良いまちにしていく事が実現できると確信しています。

最後に、阿蘇室長をはじめ、委員長を最後まで支えていただいたメンバーと、ブロック副会長とし多忙極まる中、奥様を支えて頂いた若村光司君、そして最後まで尽力してくれた若村峰沙委員長に感謝し、副理事長所見と致します。

阿部理事長 所見

ワークライフバランスの視点を入れたチームマネジメントの実践が最幸なチームづくり委員会の担いでした。しかし、事業に向けての調査の中で得た実態は、企業側の「働かせ方」にのみ議論が集中し、市民一人一人の「生き方・働き方」についての論点が抜け落ちていた現状がありました。「ワーク」と「ライフ」という二項対立する概念に対し、「自分らしい生き方」をテーマに掲げ、「こうでなければならない」という固定観念を払拭しました。市民1000人を超える参加を実現し、「個人の自立」があつての「社会との調和」を発信できたことは、多くの市民に自分と向き合う機会を提供できたと思います。自分で決断し、選択を行い、その決断と選択の結果を受け止める「覚悟」と、地域社会への「思いやり」をもって、一生懸命生きることこそが最幸のチームをつくりだしていくと思います。

委員会の様子

- ①JCを楽しむこと。
- ②時間を有意義に使うこと
(会議は9時で終了。ランチミーティングも積極的に活用)
- ③懇親会は日付が変わる前に終了
- ④財布に優しい委員会
(お得でリーズナブルなランチや懇親会を開催)
- ⑤委員会メンバーと生涯のキズナを育む

➡ 達成!



共存共栄みんなの山鉾委員会

委員長	岡部 寛
副委員長	長南 友樹、石井 悟
運営幹事	佐藤 梓、山口 彰
会計幹事	阿部 拓也
委員	齋藤高寛、佐藤岳、梅津敬輔、石川雄一、阿部健一、佐藤友輝、上村真美、高橋優、大川賢一、佐藤淳平、

「立て山鉾製作事業」

背景：当会議所は、まちの誇るべき伝統文化にすべく立て山鉾を復活させ他団体や学校への山車製作指導や巡行への参画で歴史継承に携わってきました。諸先輩が絶やす事無く続けてきたことで年々立て山鉾に対する認識も高まる中、まちの未来に責任ある我々が、過去からの学びを基に主体的に新たな価値を生み出し次世代へ継承していく人材を育成する必要があります。

対外目的：立て山鉾を地域のたからと位置づけ、主体的に次世代につなぐ意識を持たせることを目的とします

対内目的：立て山鉾に過去と時代の変化を取り入れて更なる飛躍を目指す山鉾製作後継者の育成を目的とします

手法：立て山鉾5段目以降の紙剥ぎ・木組み・番線補強・紙貼りを通して山鉾製作技術継承を行いました。

効果、成果：本年度は、技術継承を目的として事業を行いました。対外の製作参加人数は昨年を上回り、より多くの市民また観光に訪れた地域外の方々より立て山鉾に触れていただくことができました。また、対内については新入会員予定者の仮配属により今後を担うメンバーより積極的に参加いただきました。



「美しく強いまちのデザイン構築事業」

背景：これまで当会議所では長きに渡り古のまつりを取り戻すべく、立て山鉾をツールとして行政や市民及び他団体へ運動を展開してきました。しかしながら我々当会議所としては統一した指針・方針がなく親密な関係を築くまでには至っておりません。今年度50周年を迎えるに当たり昨年策定した酒田まつり長期構想を基に行政・他団体とのつながりを確立して美しく強いまちを構築する必要があります。

対外目的：山鉾一つのツールと捉え県内外の市民に対し広く周知し、各種団体と連携し歴史資料館建設を推進する協議会を立ち上げ次年度へ引き継ぐことを目的とします。

対内目的：立て山鉾製作の技術伝承を基軸に進行できる山車を製作してまちの賑わいを取り戻し行政及び他団体と意識を共有することを目的とします。

手法：今年新たに歴史に基づいた巡行型山鉾製作をメインターゲットである百花繚乱！まつり塾生と共に行いました。

効果、成果：本事業では山鉾を20日の本祭りにて巡行を実現すべく現在のインフラ環境で巡行を行える限界サイズの山鉾を製作いたしました。そして、まつり塾との運動にて巡行を実現したことにより地域コミュニティの強化を果たしました。また、19日の宵まつりでのお披露目により他地域より来場された方々の目に雄姿を焼き付けることが成されました。



「5月公開例会」

背景：まちのたからである立て山鉾は当会議所が復活させ、それ以降も様々な活動を継続してきました。その功績により現在立て山鉾の存在は多くの市民より認知され酒田まつりのシンボルとして確立してきています。しかし、まちのたからに自ら触れられる機会は少なく立て山鉾を通じてまつりへの機運を高めることができない現状があります。そこで、まちのたからである立て山鉾の真価を確実に伝え、守る必要があります。

対外目的：酒田まつりを待ち望む気持ちを高めると共に、主体的に酒田まつりに参画する意識の醸成を図ることを目的とします。

対内目的：押し迫る酒田まつりへの機運を高めると共に、一人ひとりが酒田まつりやその他の事業を成功に導く力を育成することを目的とします。

手法：大人から子どもまで楽しめるように酒田張子製作体験や酒田囃子、映像、緑日ブースを設けて模擬まつりを開催しました。夕茶まつりの後は酒田市光丘文庫 古典古文書研究員の田村真一様より酒田まつり・立て山鉾の歴史をご講演いただき、最後に立て山鉾頂上部へご来場いただいた方々の願いごとを入れていただきました。

効果、成果：

本例会では山鉾に関するアトラクションやブースを日和山公園内に設け多くの対外参加者よりご来場いただきました。そして、まちの歴史文化を体験していただくことにより更に立て山鉾が認知されました。また、会場内には子供たちの笑顔が溢れており確実に未来での伝承を期待できる光景が見られました。また、最後に立て山鉾への願い事を入れていただいたことで立て山鉾完成時には多くの方々にお越しいただきました。



委員長からひとこと

山鉾製作経験者のいない山鉾委員会でしたが、多くの方々からお支えいただき無事に全部の事業を終えることができました。私自身、不安で一杯だった昨年9月からあつという間に時間が過ぎてしまいました。長いようで短い1年間、いつもそばに委員会メンバーがいてくれたことを心から感謝していますし、このメンバーでなければ成し得なかった事業ばかりであったと信じています。

(岡部 寛)

室長からひとこと

濃い一年を過ごした岡部委員長率いる山鉾委員会。このメンバーは失敗も成功も経験し、素晴らしい「山鉾野郎」「山鉾女」になったと感じます。この経験を人生の宝物として大切にしつつ、これからの青年会議所や酒田まつり発展のために尽力して頂きたいと思います。

副理事長からひとこと

例年と違い1年間を通じ事業を開催し町の為に運動してきた委員会でした、酒田まつり後は中々意識が上がらず苦労した部分もあったかと思われませんが、委員長の人柄でメンバーを奮起させ最後までメンバーと共に事業を構築し実施していた姿は次年度以降にもつながるのではないのでしょうか、1年間様々な事業に参加してくれた、LOMメンバーに感謝するとともに委員長をはじめとする委員会メンバーにお疲れ様と言わせてもらいます。

「美しく強いまちの未来創造シンポジウム」

背景：当会議所は20年前に山鉾を復活させ山王祭に更なる活気を生むべく立て山鉾の復活、創始400年祭では市街地一部区間ではあるものの市内巡行を行いました。我々はこれまでも立て山鉾本来の在り方を取り戻すべく様々な運動を展開してきましたが、立て山鉾市内巡行は基より関係諸団体との連携も図れていない現状があります。山鉾復活から20年経った今だからこそ、我々だけではなく産学官民が手を取り共に考え美しく強いまちの未来に向け行動する必要があります。

対外目的：立て山鉾巡行がまちにもたらす波及効果を理解していただくとともに行政や各種団体との連携強化を図ることを目的とします。

対内目的：昨年度策定した酒田まつり長期構想を実現させていく上で、立て山鉾の未来ビジョンに全メンバーが統一見解を図ることを目的とします。

手法：立て山鉾をまちづくりの観点から考えていくために産学官民の有識者を集めてシンポジウムを開催しました。様々な視点を持つコーディネーター・パネリストが意見交換を交わし立て山鉾の新たな一歩を踏み出すことができたと思います。

効果、本事業では、美しく強いまちの未来創造シンポジウムと題しまして開催いたしました。そして、まつりを通じたまちづくりにおける産学官民の連携を強化すべくあらゆる観点より考察したパネルディスカッションを行うことで、各々の立ち位置にて何をすべきなのが明確となりました。また、立て山鉾を観光要素として重きにおいた交流人口拡大を図る展望を提言することができました。



理事長からひとこと

今年度は、酒田まつり長期構想の始まりの年ということで、当会議所の基本構造を、立て山鉾を中心とした「伝統文化の継承」に置き、そこを起点に「市民参加の拡大」と「賑わいの創出」という回転運動を生じさせ、直線とは違う終わりのない酒田まつりを描いてきました。酒田まつりへの参加と企画等はもちろんのこと、特に今年度は次年度以降の運動の広がりを見据えたシンポジウムを開催し、能代市の天空の不夜城協議会をはじめ、行政や大学と連携した立て山鉾を活かしたまちづくりの視点は、まつりに関わる市民に対し大きなインパクトを与えることができたと思います。我々JCIは何のために酒田まつりに関わっているのかという存在理由そのものから外部視点を交えて捉えなおしていくことが、これからの酒田まつりのあるべき姿を問い直し、根幹を踏み外すことなく、地域に潤いと心の豊かさをもたらすことができると思います。



地域と共に誇れるまつり委員会

委員長兼室長	佐藤弘典
副委員長	佐藤浩和 堺正行
運営幹事	阿部努 原義典
会計幹事	石倉正幸
委員	荒生卓真 遠田勝久 小野寺優 小西美穂 小林志季 佐々木亮 佐藤篤 佐藤浩 佐藤良平 竹内力 渡会寛子 齋藤将人

百花繚乱まつり塾事業

背景：

これまで酒田青年会議所はこの事業を通し市民の郷土愛の醸成を図り、次世代を担う若者に「誇り」を創造させてきたことで酒田まつりに対する意識向上に貢献してきた事は間違いありません。この意識をさらに高めると共に自発・自立参加型の酒田まつり実現のためには市民参加の拡大と、我々と共に地域を牽引することのできる意識の高い核となる人材を育成する事が必要です。

目的：

地域を牽引することのできる意識の高い参加者と管理者に育成することを目的とします。

酒田まつりを通したまちづくりへの想いを、意識の高い人材として若者達へ伝える機会を創出します。また、塾生と同じ音で山鉦巡行に参加することで、より一体感が生まれ酒田まつりの賑わいの創出に寄与することを目的とします。

手法：

まつり塾の開催

効果、成果：

パートにリーダーを設け、リーダー同志のミーティングを行ったことで、事業に対する責任感が感じられ自主的に行動する姿が見られました。また酒田まつり前後に取ったアンケート結果からも地域を牽引できる意識の高い参加者を育成することが出来ました。事業参加者として小学生を塾生に招いたことで父兄がセットとなり参加頂き塾全体に活気が生まれました。中でも父兄自らの意識が大幅に改革され方が多く見受けられ、なかには来年以降自主的に企画・参加していこうという方もいました。この結果からまつりに対する人材育成の面だけではなく意識醸成にも繋がりました。



地域と共に誇れるまつり委員会

委員長兼室長	佐藤弘典
副委員長	佐藤浩和 堺正行
運営幹事	阿部努 原義典
会計幹事	石倉正幸
委員	荒生卓真 遠田勝久 小野寺優 小西美穂 小林志季 佐々木亮 佐藤篤 佐藤浩 佐藤良平 竹内力 渡会寛子 齋藤将人

長期構想事業化計画事業

背景：

400年以上もの長きにわたり絶やすことなく続いてきた山王祭、我々、酒田青年会議所も宵まつりの企画運営及び本まつりの山車巡行において、地域の賑わいを取り戻すべく活動し伝統文化を重んじながら参画してきました。今年度50周年を迎えるに当たり、変わらないために変わり続ける市民参加型の酒田まつりの実現へ向け行動する必要があります。

目的：

自分たちのまつりだという意識を醸成し伝統文化を重んじ自発的に参画してもらい、市民主導型の酒田まつりにすべく賑わいを創出し事業を構築していく事を目的とします。

歴史を学び時代に合わせた宵まつり・山車巡行を企画・運営することが50周年の節目、酒田まつり長期構想のスタートと位置づけ我々及び市民が共に手を取り構築できる事業とすることを目的とします。

手法：

酒田まつり実行委員会と連携した宵まつり・本まつりの企画運営

効果、成果：

今年度は宵まつり・本まつりを長期構想の3本の柱を基準に考え走り出しの年として事業の開催及び参加をしました。宵まつりでは伝統文化と新たなる市民参加の在り方を考え山王フェスを開催し今後の宵まつりを考える上で市民主導型でも開催できる設えをしました。本まつりでは我々が所属している酒田まつり実行委員会と連携し山車の待機場所・巡行形態を考え開催しました。JCが今まで酒田まつりに参加してきた過去から現在における課題を見だし、今年度は巡行する際の新たな掛け声の取り決めと声だしをしながらの日吉丸巡行練習を企画し、練習において当日の動きを実際に肌で感じてもらったことで、当日は大きな掛け声で勇ましく日吉丸を引き上げる姿と、観客からも声援が上がる様子が見受けられたことから賑わいの創出が図れたと断定し、幸先良く長期構想のスタートを切ることが出来たと感じています。



地域と共に誇れるまつり委員会

委員長兼室長	佐藤弘典
副委員長	佐藤浩和 堺正行
運営幹事	阿部努 原義典
会計幹事	石倉正幸
委員	荒生卓真 遠田勝久 小野寺優 小西美穂 小林志季 佐々木亮 佐藤篤 佐藤浩 佐藤良平 竹内力 渡会寛子 齋藤将人

6月公開例会

背景：

酒田青年会議所は、「まちづくりの鍵は酒田まつりにある」という考えを基軸としてまちの発展のための運動の一つとして継続した酒田まつりへの参画を行って参りました。2014年には酒田まつり長期構想を策定し、今後もまちの発展のための運動を続けていく覚悟をもって行動をしております。我々が行ってきた運動により、中高生や市民の酒田まつりへの参画者の増加傾向にはあるものの、歴史文化を知り、次世代へと継承していくことは継続して行うべきことであり、歴史文化の認識による地域への誇りを醸成していくことに対する努力を重ねていくことは重要であると考えます。酒田まつり長期構想を基軸としたまちづくりを実践し多くの共鳴により地域に潤い心の豊かさをもたらしていくことが我々に求められていると考え本事業の立案に至りました。

目的：

まつりの歴史と酒田の歴史を知り、まつりを盛り上げることが酒田を活気づける事に寄与することを認識してもらう事を目的とします。

まつりの歴史と地域の歴史を知り、酒田青年会議所がこれまでまつりに参画してきた意義を改めて知り、振り替えることで酒田青年会議所に所属することへの誇りを醸成し、まつりを通したまちづくりを行っていく必要性を認識することを目的とします。

手法：

6月公開例会～まつりはドラマよ～の開催

効果、成果：

江戸時代から続く山王祭及び酒田市の歴史を紐解き、時代の移り変わりによってまつりがどのような変化をし、我々が何時の時代から参画しどのような変化をもたらしたか、脈を創出してきたかを学び、参加してくれたメンバーに発表する事業として委員会メンバーとなり準備し発表しました。アンケート結果にもありますが、参加してくれた方々に酒田の歴史及びまつりの重要性を再認識していただけたのではないかと思います。

ああこの瞬間
大事にしたいなあ
そう思うだろう？
それがまつり
じゃねえのかな

2016年 6月25日(土)
16:00~17:30 (15:30 受付開始)
会場 酒田産業会館 4階 日本海
定員 200名 (申込不要)
※会場に駐車場が無いので、近隣の駐車場をご利用ください。

公益社団法人酒田青年会議所 6月公開例会

まつりはドラマよ

～酒田まつりの過去・現在・未来～

内容 第一部 酒田まつりの「過去」
400年以上続く酒田まつりのルーツや歴史
をドラマチックに紐解きます

第二部 酒田まつりの「現在」と「未来」
近年の酒田まつりをドキュメンタリーにした
『まつりにはドラマがある』をご覧いただきます

JCI® お問い合わせ 公益社団法人酒田青年会議所 地域と共に誇れるまつり委員会
Tel:0234-24-9192 Fax:0234-22-8438 Mail:info@sakatajtc.net HP:http://www.sakatajtc.net/

理事長からひとこと

「モノを売る時代」から「コトを売る時代」への転換にあって、まつりにおいても交流を通じて、人と人、文化と文化が出会い、互いに影響し合う中で、各人が自分にふさわしい位置を再認識することが重要視されつつあります。まつりは誰のものかという問いに、シンプルに分かりやすく且つ楽しく伝えられる事業こそがまつり塾だと思います。ルーツを知っている、知らないでは、自らについての自尊心や誇りの深みが変わってきます。日本人は英語ができないとか、海外コンプレックスを持つ傾向がありますが、本当は世界でも類を見ない歴史と文化を持つ民族です。また、まつり塾は、その場にいる人たち全員の一歩を踏み出すことができます。インターネットやスマートフォンなどが普及した現代ですが、大人から子供へ口伝のように伝え、お互いに学びコミュニケーションできる事業だと確信しています。



地域経営まちづくり委員会

委員長	和田 誠
副委員長	三浦 純一 國松 真也
運営幹事	石川 直紀 佐々木 大祐
会計幹事	澤口 貴之
委員	齋藤 祐樹 石川 英一 佐藤 桂輔 渋谷 春樹 高橋 俊次 田中 新

「四月公開例会」

企業と起業

～これからの経営者の在り方～

背景: 私たちのまちには、財を成した豪商たちがまちづくりに寄与し公益の精神が受け継がれ湊町として栄えてきました。しかし、まちの事業所数は年々減少し、起業しようとする人材も少なく、また人口減少も相まってまちの産業力が失われている実態があります。今こそ、まちに住む経営者、これから起業を考えている市民・学生が「経済性」最優先の経営の在り方から、企業の社会的使命である「永続」と「社会性」を最優先する経営の在り方へ意識変革し、地域貢献しながら自社を強くする方法を学び、まちを経営する視点をもって民間主導でまちづくりを牽引していく必要があります。

対外目的: 参加者が民間主導のまちづくりの必要性を感じ、実践する意識へ変革することを目的とします。

対内目的: メンバーがまちを経営する視点をもち民間主導のまちづくりを理解し、率先して行動する自覚をもってもらうことを目的とします。

手法: 公開例会の開催
第一部 基調講演 大久保秀夫氏
第二部 白熱起業塾 東北公益文科大学学生



効果、成果:

対内参加人数 80名
対外参加人数 139名
合計 219名

当会議所として今年度一番初めの公開例会として内容、動員全てにおいて一定の成果のある例会だったと思います。

講師として大久保秀夫氏をお招きし、今ではJCのスタンダードとなりつつある公益資本主義という考え方を企業経営者を中心に発信し、学生が民間主導の循環型まちづくりプランをプレゼンし来場していただいた皆様より意見を頂戴しブラッシュアップする新しい手法も取り入れ行いました。また、委員長が台本を見ないで趣旨説明を行う手法にもチャレンジし今までの例会のイメージを変えることもできました。

付属的成果、後日談

- ・山形新聞さんが積極的に取り上げてくれた。
- ・学生がプレゼンした内容が実際に動き出した。
- ・〇洋自動車工業の就職が決まるきっかけを作った。
- ・大久保秀夫氏がサマコン登場。

「起業家精神の喚起事業」

付属的成果、後日談

背景: 私たちのまちには、財を成した豪商たちがまちづくりに寄与し公益の精神が受け継がれ湊町として栄えてきました。しかし、まちの事業所数は年々減少し、起業しようとする人材も少なく、また人口減少も相まってまちの産業力が失われている実態があります。今こそ自らの想いを形にできる人材を育成し、循環型まちづくりの実践を通じて起業家精神をもった若者たちがまちを先導して行く必要があります。

対外目的: 学生の起業家精神を喚起するとともに、社会に貢献できる自立した人材の育成を目的とします。

対内目的: 学生・地域住民との交流を深め、民間主導の自立したまちづくりの意識醸成を目的とします。

手法: 民間主導のまちづくりの社会実験

効果、成果:

東北公益文科大学学生の平尾ゼミ生と共に、5月の酒田まつり宵祭りで得た利益をこども食堂の運営費に投資し、学生が積極的な広報をすることで運動の広がりを生み循環させていく事業でした。

当委員会では起業家精神を「リスクを恐れず挑戦し新しい価値を生み出そうとする姿勢」と定義し学生が主体的に取り組む環境を整備しサポートすることで、社会に貢献できる自立した人材の育成ができました。

初めの酒田まつり宵祭りの出店では約35万円を売り上げ利益は約19万円となり学生の自信に繋がりました。またその後のこども食堂の運営、北前横丁での出店、学生によるメディアへの働きかけと学生が積極的に取り組み、新しい価値を生み出そうとする姿勢が生まれました。

- ・学生が自分の住んでいた地元ではなく、酒田が好きになり酒田での就職を希望する人が出てきた点。
- ・事業後も学生がこども食堂の運営し、北前横丁での出店が継続されている点。
- ・学生だけではなくこども食堂に興味のある一般市民が運営に関わっている点。
- ・この民間主導の循環型まちづくりの取り組みがサークルとして申請し全学生が取り組める事業になる予定です。(サークル申請中)



「まち・ひと・しごと発信事業」

就活Revolution～新しい就活のかたちがある～

背景: 私たちのまちには産業の衰退、人口減少問題など様々な地域課題を抱え、若者の地元離れはまちの未来を牽引する人材を失うことになり早急な対策が必要です。地域全体が東北公益文科大学とその学生が持つ特徴や良さを見つめ直し、地域が一体となりまちを牽引する人材へ育てていくと共に学生が地元企業の魅力を知る機会を増やし地元で定着していく仕組み作りが必要です。

対外目的: 企業・行政・学生が一体となり新しい就職活動の在り方を考え、学生の郷土愛を育み地元で定着させる意識の醸成を目的とします。

対内目的: 地域を牽引するリーダーとして学生の就職活動の現状を知り、若者を育て地元定着させる意識醸成を目的とします。

手法：新しい就活のかたちを考えるシンポジウム

効果、成果：

対内参加人数 61名
対外参加人数 31名
合計 92名

4月例会から5月事業そして10月事業と一貫して東北公益文科大学学生と共に歩む事業を行ってきた最終として、学生のゴールである「就活」にフォーカスをあて、ここ10年変わってないと言われる就活のあたらしい形を行政・学生と共に考える事業でした。

酒田市のまち・ひと・しごと総合戦略にある「酒田市への新しい人の流れを作る」部分を酒田市商工港湾課加藤様よりご説明いただき、その後学生と共に行ってきた民間主導の循環型まちづくりの社会実験の効果を発表し、その学生たちが最後の悩みである就活の現状と新しい形を山本講師より発信していただき有意義な事業であったと思います。

実際、当委員会の事業に関わったことで酒田が好きになり、実際に酒田の就職が決まった生徒も出てきた点は特筆すべき効果であると考えます。



付属的成果、後日談

- ・この事業がきっかけとなり平尾教授の働きかけもあり来年度、ミライコンテスト酒田(新しい就活)がスタートを切ることになりそうです。
- ・実際に、当会議所OBの会社の面接を受けたり紹介したり学生の就活の手助けができた点。
- ・次年度理事メンバーを中心に各々ステージ上がれるように工夫し、委員会全体での発信ができた点。



おまけ

酒田JCの皆様のおかげで沢山の社会勉強ができました！
これからも酒田のまち、大学の後輩もよろしくお願ひします！！
東北公益文科大学 平尾ゼミ生一同



委員長からひとこと

当委員会は一年間4月例会から10月事業までストーリー性を持たせ、東北公益文科大学学生と共に事業を行い、沢山の学びを得ることができました。また、各事業では当会議所メンバーの皆様より沢山の支援を頂戴し無事一年間の担いを全うすることができました。本当にありがとうございました。そして優秀な委員会メンバーに恵まれた事にも感謝致します。(和田 誠)

室長からひとこと

酒田に根付く公益の精神を「公益資本主義」に注目し発信し、社会貢献できる人材の育成する事業を行いました。若者の中には酒田で何かができるかもしれないと地元就職を希望する方もおり、若者の意識変革を起こすことができたと思います。未来を担う若者と共に運動を発信できたことは今後に繋がる第一歩となったと思います。(矢野 泰規)

副理事長からひとこと

公益資本主義を学び、起業家精神を育む事業に取り組みました。事業に関わった学生の意識変化を生み、仕掛けた我々も多くを学べる事業だったと思います。これからのまちづくりには、地域経済の活性化と若者が夢を抱ける環境の構築が必要です。我々企業家の意識を変え、企業の在り方や就活への考え方を改めなければなりません。(大矢 貴幸)

理事長からひとこと

「まちとは何か」。私たちはなぜ、商店街に感じる「まちらしさ」をショッピングモールには感じないのか。おそらくそこに欠けているのが、「アントレプレナーシップ(起業家精神)」であり、自分で事業を起こしていくという人がいて、その想いを活かすことができる空間を、私たちは無意識に「まち」と言っています。今年度は東北公益文化大学の学生とコラボレーションし、公益資本主義を共に学びながら、異なる専門技能や世界観、意見を持つ人たちがアイデアを共有し、学生たちが実践してそれを体系化し、地域へ伝えてきました。仕事とは与えられるものではなく、仕事とは自分たちで創りだしていくものだという働くことへの若者の意識変革に我々JCメンバーも多くの勇気をもらいました。また、大学との連携は我々企業家にとっても様々な示唆得られる機会であり、まちづくりの新たな可能性を切り開けたと思います。

平尾ゼミの学生は、JCの皆様と活動するようになってから、社会への関心がとても高まりました。それは多くの社会人と出会い、真剣な話し合い、一緒にプロジェクトを進めていく中で育まれたものです。特に、他の地域出身者から、酒田でのつながりを大切にしたいから、酒田での就職を希望するという学生も出てきたのには、驚きました。地域と大学、社会人と学生の新しい協業スタイルがJCの皆様の熱いサポートのお陰で、実現できたのだと思います。JCの皆様のハートが、学生に伝わったことによる成果だと考えています。



東北公益文科大学 教授 平尾 清

みんなで減災委員会

委員長	小林慈明
副委員長	高橋了、前田光
運営幹事	佐藤純、菅原卓
会計幹事	塚形智志
委員	佐藤瞬、佐藤真士、佐藤拓也、宗雄大、船木文博、横山桂一

「4月事業」

背景：防災・減災について組織として実動できる体制づくりに取り組んできました。時間の経過とともに震災時以降の入会メンバーの増加や単年度制・卒業という制度により、実際に防災・減災や災害対策についての意識を高く持ち理解し実動できるメンバーは少なくなっています。今一度、平時からの備え・意識・心構えを高く持ち減災に対し率先して行動できる組織である必要があります。

目的：災害対策と減災を身近に感じてもらい、意識を高く持ち日頃からの備えや災害発生時に組織として実動できる体制を整えることを目的とします。

効果・成果：第一部は、小野寺顧問・鈴木先輩によるトークセッションを行っていただきメンバーからも「大変勉強になった」「体験した人の話は為になった」等の意見を頂き、講演の趣旨が間違っていないことを実感しました。また、災害対策と減災を身近に感じ意識を持つことが出来たのではないかと思います。



委員長から

いつ起こるかかわからない災害その時どうするのか？個人として？JCとして？そんなことを考えながら始まった一年でした。今年も、4月事業の翌日熊本地震があり、8月末には台風10号の風水害を北海道・岩手県を襲い、10月には鳥取中部11月には福島沖で大きな地震など各地で災害が起こりました。市民の災害に対する意識は確実に変化しています。今後も防災・減災の意識醸成の発信は必要不可欠です。最後に一年間、私を支えてくれた委員会のメンバーに感謝します。ありがとうございます。

矢野室長から

災を市民に身近に感じてもらい浸透させるために、楽しい要素を盛り込んだ公開例会を開催しました。酒田大火から40年ということもあり当時のことも説明し実施しました。メンバーのみならず、市民の減災に対する意識を向上させることができたのではないのでしょうか。

大矢副理事長から

災害支援を学ぶ事業として、2度の水害を体験した南陽JCの鈴木先輩を講師にお呼びしました。小野寺顧問よりコーディネーターを引き受けていただき、JCとしての災害支援を行った実体験を基に講演いただきました。災害現場の最前線で支援活動を行った経験を持つお二人の話はとても解りやすく説得力がありました。災害対策組織図を使った訓練では災害を想定した各グループの動きを確認し、7月公開例会では酒田大火の被害を受けた地域を歩きました。メンバーの減災に対する意識醸成、災害支援の具体的な行動把握、地域の災害に触れ減災を身近に感じ生活の一部と考えるという事ができたと感じます。

「7月例会」

背景：東日本大震災・南陽市豪雨災害・熊本地震など近年日本各地で大規模災害が多発するなか、被災者であるわたしたちに備え・減災という意識がなかなか普及しないのは、当事者意識が不足していることや具体的に何をすればよいのか理解していないことがあげられます。被災者や関係諸団体等では災害に対する備え・減災の普及活動など、住民主体の運動が進められている今こそ、生活者としての視点を活かし暮らしに根ざした楽しい減災により、減災が生活の一部という意識を醸成する必要があります。



目的：家族・親子という最小のコミュニティに減災という考えを定着させるため子供とその保護者を主な体外対象者とします。また、これからの未来を担う若者たちに減災を当たり前のこととして捉えていただき、子供たちが学び身に着け実践する姿を見ることで大人も一緒になって学んでいただけます。さらに子供たちが次世代の子供たちに減災を当たり前のこととして教えてもらうために親子で参加し暮らしに根ざす減災を取り入れていただきます。人数については手法の性質上、安全性と交通の妨げにならない程度の参加人数を考えて、親子で参加いただきたいと思います。



手法：一部、減災ウォークは酒田大火を通して災害とそれに対する備えを身近に感じてもらった事が狙いでした。当日は炎天下長時間の中での開催となりましたが、参加していただいた方のほとんどが地元で起きた災害を知らない世代であったこともあり、様々な学びと災害を身近に感じてもらえる設えが出来ました。二部ではNPO法人ママブラク講師富川様により、実際に身近にある物を使っての減災、災害対策のセミナーを行いました。



効果・成果：七月公開例会は、被災者であるわたしたちが備え・減災という事を意識し、当事者意識を持ち実際に何をすればよいのかを、生活者としての視点を活かし暮らしに根ざした楽しい減災を通じて減災が生活の一部という意識を醸成するために開催しました。「減災」という言葉の意味やそれに対する意識の周知、今後の減災活動・運動の一歩になったと思います。

理事長からひとこと

減災という言葉からは、何か非日常で、自分たちからは遠い存在のような印象を受けますが、災害時という特殊な状況に対する備えであっても、生活に必要なことの基本は変わりません。災害時に本当に役に立つ備えをするためにも、減災は日常生活の延長線上にあるべきものと考え、本年度は「できることから始める防災」というテーマで、7月公開例会では、身近なものの防災グッズの体験や防災食の試食など、家庭で取り組み内容で開催しました。また、本年度は酒田大火後40年ということで、親子で減災WALKと題して、当時の災害状況を知り、近年多発する災害に対して当事者意識と備えの必要性を学んでいただきました。防災・減災は時間の経過と共に危機意識が薄れていくため、日常生活に馴染みやすい形で継続的に意識付けをしていく必要があると思います。そして、LOM内でも災害が発生したときの初動がスムーズに行えるよう、JC内のネットワークを活かした体制づくりを強化していく必要があります。

総務・PR委員会

委員長	小泉利晴
副委員長	齋藤洋一
運営幹事	莊司たまき、村上徹
会計幹事	徳田佳奈
委員	大和田基継、尾崎有希、佐藤愛、城取良太

1月通常総会

〈背景〉

当会議所は1967年に創立以来、時代に合わせ変化しながらも連綿と受け継がれてきた輝かしい歴史と業績により、今も様々な角度から市民の意識変革を促す団体として存続しています。総会という重要な会を通して今後も地域に必要な団体としてあり続けるために全メンバー丸となって50周年という節目を「共にある～自由で創造的な未来のために～」のスローガンのもと力強く進めていく必要があります。

〈目的〉

2016年度体制をしっかりと整えメンバーひとりが今年度の基本方針を理解し、高い意識で当会議所の活動・運動につなげていくことを目的とします。

〈手法〉

2016年1月20日(水) 18:45～21:00 酒田市勤労者福祉センター3階多目的ホールにて総会を執り行いました。

〈効果、成果〉

出席83人、委任状・書面表決36人、欠席4人6議案すべて可決承認!!

〈付属的成果、後日談〉

新春と同時並行で準備を進めてきました。総会の参加率を上げるため、新春とは別日開催。次年度以降も滞りなくスタートが切れるよう、新春・総会マニュアルを作成!! (酒田JCのレガシーになる! ?かも。)



8月通常総会

〈背景〉

諸先輩の輝かしい歴史と業績を紡いできた当会議所は、本年創立50周年の節目の年を迎えます。今年の卒業生が23名であり、来年度以降も経験豊富な多数のメンバーの卒業が控えている中で、次年度以降も酒田青年会議所の活動・運動を発展させながら歴史の継承と盤石な組織体制を整えていかなければなりません。

〈目的〉

次年度を担う理事候補者・監事候補者を厳正な総会の場において会員の総意により決定し、次年度の方向性を共有することを目的とします。

〈手法〉

2016年8月9日(火) 19:55～20:55 酒田玉姫殿 ラボナにて総会を執り行いました。

〈効果、成果〉

出席94人、委任状・書面表決22人、欠席1人3議案すべて可決承認!!

〈付属的成果、後日談〉

メンバーの総意を持って次年度体制の承認を! を旗印に参加推進と委任状・書面表決集めを行いました・・・が、委任状・書面表決集めはむなし!!!よ。



新春初顔合わせ会

〈背景〉

2016年度は当会議所の50周年という節目の年になります。また、連綿と受け継がれてきた歴史と業績により今も市民の意識変革を促す団体として存続しています。当会議所の社会的責任や自己運動に対する意識を一人ひとりが更に高めていかなければなりません。

〈目的〉

対外: 当会議所の新体制・各事業の方向性と50周年を担う覚悟を諸先輩や関係団体、来賓へ発信し、2016年度の活動・運動に対する理解と協力を頂き、交流を深めることを目的とします。

対内: 新春初顔合わせ会を通して当会議所・個人に対するご尽力への感謝を知ること、そして、交流を深め今後の事業や組織力強化につなげること、さらに、当会議所を挙げて50周年を担う意志を発信することを目的とします。

〈手法〉

2016年1月27日(水) 18:10～21:00 ホテルリッチ&ガーデン スカンジナビアにて新春初顔合わせ会を執り行いました。

〈効果、成果〉

来賓49人、輩出企業4人、OB会員43人メンバー83人 新入会員候補者5人 合計184人が参加されました!!

〈付属的成果、後日談〉

10月26日に第1回総務・PR委員会開催。年度末に向け慌ただしい中、新春まで合計12回の委員会開催でメンバーの結束が強まりました!! 50周年式典へ向け好発進!!



委員長からひとこと

我々の委員会は、この組織体制の根幹を担う事業であり、重要な委員会である自覚と誇りを持ち活動してきました。他の委員会と違い華やかではありませんが、我々が行った事業が盤石であるからこそ、組織の結束力と高い意識での活動・運動に繋がります。地域を担う団体としての将来性と自立性に関与できたと思います。皆様の、ご協力のおかげで無事終わります。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(小泉利晴)

事務局長からひとこと

1月・8月通常総会は当該年度や次年度の活動を左右する非常に重要なものでありますが、メンバーから多くの意見が出され、意義のあるものとし、形骸化した総会にならないよう次年度は設えを考えて頂きたいです。当委員会は外部の目に触れられることが少なく目立たないのですが、唯一無二ではない委員会です。そんな気概をもって1年間活動してきた委員会メンバーには非常に感謝申し上げます。(青塚大輔)

専務からひとこと

半年度制が特徴のJCですが、どのJCにも、地区にも出向先にも総務委員会は存在しており、ある意味で最も歴史のある継続委員会が総務委員会と考えることができます。50周年を迎えるにあたり、総会や新春といった「定期事業」をしっかりと蓄積できる運営を小泉委員長にはお願いしました。新春・総会マニュアルの作成、例会・事業のアーカイブ化など、その功績は計り知れません。本当に1年有難うございました。(久木原満)

小野寺顧問

最後のLOMセミナー

40名が参加!
ありがとうございました!



公開委員会を行いました

総務・PR委員会では、委員会名称にもある“PR” (パブリックリレーション) にこだわり、広報活動を行ってきました。全例会の映像記録と3961枚の写真により内外へ向け情報発信を行いました。酒田青年会議所への愛着と自分達の活動への誇りこそが、効果的な情報の発信に繋がるものと総務・PR委員会は考えます。小野寺顧問、お忙しい中、我々メンバー向けセミナーを開催していただきありがとうございます。

理事長からひとこと

近年、企業の社会的責任(CSR)が強く叫ばれるようになった昨今、社会で果たした役割や地域貢献を伝えることで、信義を大切にしている意識の高い市民に評価をして貰えるようになりました。本年度はホームページとfacebookを運動することで個人の発信力に重点を置き酒田JCの認知度向上を図りました。タイムリーな情報発信から、共感できる情報の配信に心掛け、価値観を共有しているネットワークによる情報の広がりから、メンバーだけではなく、その知人を通して地域を超えて広くPRしました。また本年度、市民や他団体と連携した事業を通して、多くの市民から事業の内容についてさまざまな場面で感想を伺うことが出来ました。そして、総会では参加推進に注力することで、全員参加とはなりませんでしたが、委員会活動も含めたメンバーとの関わり方を検証しました。総務には運動を側面的に創り上げていく立場としての機能が求められると思います。

事務局

事務局次長	高橋克行
会務理事	茜谷雅人、庄司健
会計理事	大壁洋平
渉外理事	阿部修子
委員	石井由紀、池田武史、馬道雄一、奥山翼、小野寺奈緒、加藤高正、村上哲也

わんぱく相撲酒田場所

〈背景〉

わんぱく相撲は子ども達に勝ち負けにとどまらず礼節や思いやりの心を育む機会を提供する場として、1985年より長きに渡り開催されてきており、当会議所においても開催当初より事業として取り組んできました。

しかしながら、ここ近年では参加する子どもの数が100名に迫る実績を残す一方で、大会の開催に関与する「大人」の状況には変化が見られないため、地域全体がわんぱく相撲を通じて青少年育成に携わる枠組みを構築することが必要です。

〈対外目的〉子ども達に相撲を通して礼節や他者を思いやることの大切さを学びます。また、地域が連携して子ども達の成長の機会となる場を提供していくための枠組みを構築することを目的とします。

〈対内目的〉相撲体験の中で成長する子どもの姿を通じて青少年育成事業の本質を学び、地域と連携して子ども達を育成する意義の理解を目的とします。

〈手法〉

わんぱく相撲酒田場所開催9:00~15:00
市民会議での意見交換 各学校へのヒアリング

〈効果、成果〉

〈対外〉

競技前の説明において、対戦相手へ敬意や思いやりを持って取り組むことや、今年のスローガンである「自分を信じる力」について伝えることができました。準備運動を兼ねた相撲講習においても、四股踏みや取り組みの流れを説明して知識を学ばせた他、礼法講習を行うことにより、相手を敬う動作を実演し子ども達に実践してもらいました。

保護者の意見も多く聞かれ、わんぱく相撲を通じて子供たちのよい経験となったという意見が多く、わんぱく相撲が子どもの成長の機会になり事業の意義を再認識できる結果となりました。

〈対内〉

今年のわんぱく相撲は昼食会ををさんで午後3時までの開催だったため、参加できるメンバーの時間帯に差がありました。当日参加したメンバーに対しては、運営面での役割分担を明確にして事業を進め、子ども達の成長を目の当たりにして青少年育成事業の本質の理解につながったと感じます。



〈付属的成果、後日談〉

出場者数92名 (内女子6名)

全国大会出場者

6年生 琢成小学校 梶井伸康君

5年生 黒森小学校 渡部堅心君

4年生 立川小学校 石川幸弥君



ふるさとOMOIYARIプロジェクト2016

背景：我々は、2008年から市民とともに美しい「やまがた」を継承する協働運動を続けてきました。更に故郷を思う活動を継続的に繋げるには、そこに住まう市民が美しい「やまがた」を継承する担い手であるという市民意識変革につなげ、協働運動を更に広げていく必要があります。

〈対外目的〉プロジェクト参加者が郷土愛を育む心と他者に対する思いやりを持ち続け、夢と希望と美しい自然に満ち溢れる「やまがた」を築くために意識変革を促し、率先して行動する当事者を増やすことを目的とします。

〈対内目的〉各室に役割分担で率先して動いていただき、多くのメンバーが県民の意識変革出来たという回答から、自ら率先して行動し規範意識を持って市民に意識変革・行動を促す目標は達成出来た。清掃活動と関係が深い組織・団体と交流することにより、我々以外の活動も理解することができました。また清掃活動の他、その場所に合った楽しめる活動を通す事により、更に地域愛を深めることができました。

手法：OMOIYARI活動として5箇所一斉清掃活動とその場所に合った楽しめる活動を行う

効果、本事業では、美しく強いまちの未来創造シンポジウムと題しまして開催いたしました。そして、まつりを通したまちづくりにおける産学官民の連携を強化すべくあらゆる観点より考察したパネルディスカッションを行うことで、各々の立ち位置にて何をすべきなのかが明確となりました。また、立て山鉾を観光要素として重きにおいた交流人口拡大を図る展望を提言することができました。



効果

〈対外〉参加者から今後とも後世に美しい自然を残すために活動を続けていきたいという意見が多く頂きました。また、事前に打ち合わせをする段階で酒田青年会議所という組織のあり方や理念を説明し今後とも協力出来ることはしていきたいというお言葉を頂き関係向上にも繋がりました。

〈対内〉各室に役割分担で率先して動いていただき、多くのメンバーが県民の意識変革出来たという回答から、自ら率先して行動し規範意識を持って市民に意識変革・行動を促す目標は達成出来た。清掃活動と関係が深い組織・団体と交流することにより、我々以外の活動も理解することができました。また清掃活動の他、その場所に合った楽しめる活動を通す事により、更に地域愛を深めることができました。

〈引継ぎ〉山形ブロック協議会の事業として参加をした為、予算執行ができませんでした。また、酒田青年会議所として活動したい事も審議を通過してないため動けない事が多々あり、来年度は理事会の協議・審議を通して事業執行をするべきであると考えます。



〈付属的成果、後日談〉

協力いただいた外部団体

釜磯海水浴場：鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会

万里の松原：万里の松原に親しむ会

最上川河川敷：酒田グランドゴルフ協会

大浜海岸：酒田市

飛島：鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会

事務局

事務局次長	高橋克行
会務理事	茜谷雅人、庄司健
会計理事	大壁洋平
渉外理事	阿部修子
委員	石井由紀、池田武史、馬道雄一、奥山翼、小野寺奈



わんぱく相撲全国大会

〈背景〉(公社)東京青年会議所が(財)日本相撲協会と協力して開催するわんぱく相撲全国大会は子ども達の心身の鍛錬と健康の増進を図り、地域コミュニティの活性化を目指し、過去31年間に渡り行われてきました。この大会を通じ、地域の代表としての誇りと高い壁に立ち向かう強い心を持つ健全な青少年を育成する必要があります。

〈対外目的〉自分を信じ、勝つことの喜び、負けることの悔しさを通じて勝者を称え、敗者への思いやりや周囲の方への感謝の気持ちを育む事を目的とします。

〈対内目的〉子ども達が勝負に真剣に取り組み、成長していく姿を目の当たりにすることで青少年育成の意義を再認識していただけます。

〈手法〉7月31日わんぱく相撲全国大会出場全国大会後に報告会を開催自分の成長と周りへの感謝の気持ちを表す。

〈効果、成果〉

〈対外〉

初めは自身がなかったが、練習を通じて自身が生まれ、それが勝つことの喜びとなり、負けた時は悔しい思いをしながらも支えてくれた周囲の方への感謝の気持ちが育まれました。

〈対内〉全国大会で実際に応援したメンバーはわんぱく力士の成長を肌で感じ、また報告会の際の参加メンバーにおいても概ね自己成長や周りの人たちへの感謝を感じ取ることができました。



〈引継ぎ〉

報告会は子ども達の成長に触れる良い機会でもあります。地方大会から練習会を経て全国大会出場へと、自分の成長を発表できる場であると同時に、その報告を実際に参加して聞くことで子どもの成長を目の当たりにできるだけではなく、青少年育成事業としての事業を改めて認識できる機会だと思えます。是非来年度以降も継続して開催していただきたいです。



〈付属的成果、後日談〉

全国大会戦績		
6年生 琢成小学校	梶井伸康君	2回戦敗退
5年生 黒森小学校	渡部堅心君	初戦敗退
4年生 立川小学校	石川幸弥君	初戦敗退

9月例会

背景：酒田青年会議所は1967年に創立され今年で50周年を迎え、今後の運動展開の方向性を示す創立50周年記念式典や記念祝賀会が開催されます。50周年の輝かしい歴史や次年度以降の運動・活動の指針を肌で感じ、メンバー丸となり高い意識をもち続け、酒田青年会議所の更なる発展に繋げていく必要があります。

〈目的〉準備を進めてきた酒田青年会議所の50周年事業について、これまでの流れ及び当日の動きの最終確認を行うと共に、式典・祝賀会に向けたメンバーの意識高揚を図ります。また、酒田青年会議所メンバーとしての自覚を一層高め、酒田青年会議所と会員個人の更なる成長・発展の機会とすることを目的とします。

手法：50周年記念式典・祝賀会へ向け、各部長、実行委員長による最終確認と決起表明

〈効果〉記念式典・祝賀会の前日に各部長からの決起表明を共有することで、出席者の80%近いメンバーに対して参画意識の向上を促すことができました。直前の決意表明の事もあり、言葉の重みも深みを増しており、メンバーも50周年の重みを実感できました。また、大多数のメンバーが式典・祝賀会を通じて自覚を一層高め、酒田青年会議所と会員個人の更なる成長・発展の機会にでき、また10年先に向けた運動の展開に向けて動き始めました。

事務局次長からひとこと

本年は事務局次長として携わらせていただきましたが、とにかく自分への課題と反省点が浮き彫りになった1年半でした。事務局としての動き・事業を担う動き・事務局理事メンバーと連携しての動きと様々な場面で勉強させていただきました。専務理事、事務局長をはじめ事務局メンバーと一緒に活動できたのは大きな財産です。ありがとうございました。(高橋克行)

事務局長からひとこと

本年は継続事業でもわんぱく相撲では女性力士を募集し、OMOIYARIプロジェクトではENJOY活動を組み込むなどの初の試みを行いました。また県内参加した全国大会をはじめとした渉外活動など、充実した活動を行ってきました。高橋次長の下、1年間気の休む暇もなく例年の事務局以上に走り続けたメンバーには感謝申し上げます。(青塚大輔)

専務理事からひとこと

本年事務局は継続事業の刷新・アテンダンス参加推進の強化・財政運営会議の立ち上げの3つのテーマで取り組んできました。多くの挑戦をした1年でありましたが、共に奮闘してくれた青塚事務局長をはじめとする事務局メンバーの皆様には本当に言葉にならない感謝の想いで一杯です。50周年、この最高の仲間と一緒に過ごした期間を忘れません。みんな、有難う(久木原満)



理事長からひとこと

本年度の事務局は、事務局としての機能の他に、わんぱく相撲やOMOIYARIプロジェクト継続事業を常に着実に、かつ清新に展開するためには、その事業が歩んできた長いプロセスを評価し、反省し、不足しているものを補い、新しい発想を加え、次なるステージへと押し進めるという役割がありました。

また、事務局内には渉外担当を設けることで、アテンダンス事業への参加推進を強化し、メンバーがより主体的にアテンダンス事業に参加し、外部視点を学んでLOMに持ち帰れるようにしました。また、会計理事を中心に財政セミナーを開催し、各委員会の会計幹事と共に会計に関する知識のレベルアップを図りました。本年度の事務局の機能は多岐にわたりましたが、事務局はLOMの運動と一緒に作っていくという姿勢は今後も求められると思います。

新入会員

メンバー

後藤正人・佐藤真人・千葉識子・Pierre Gambarini・齋藤祐樹・齋藤希望
佐藤翼・佐藤美和・清野俊樹・小鷹舞・兒玉高幸・加藤譲・丸山拓眞
新田篤志・齋藤剛士・阿部謙介・齋藤拓也

「11月例会」

背景：我々が住み暮らす地域は当会議所などさまざまな団体が地域活性化に取り組み、留めることのできない人口減少問題やまちの課題に対し向き合っています。しかし、市民のまちづくりへの無関心さも影響し、高校卒業後庄内地域に残る若者は県内の他地域と比べても低い割合となり消滅都市にも挙げられています。今一度、若者の多様な価値観を真摯に受けとめ、魅力溢れるまちへ変革し、次世代を担う若者と協働した事業展開を描く意識醸成を図る必要があります。

対内目的：次世代を担う若者の地域に対しての考えを知るとともに、次世代の担い手と協働した社会参画への意識醸成を目的とします。

手法：【11月例会テーマ】

～未来へ繋ぐ次世代のチカラ～

地域の統計では高校卒業後の地元離れが多く、割合を占めている事を数値化していますが、若者が地元を離れる事は決して悪いことではないと考えました。しかしながら、若者が地域をどう思っているか、次世代を担う若者の地域に対しての考えを知る必要があります。

効果、成果：11月例会を新入会員がゼロから取り組み設えることで、設営の学びを得ることが出来ました。また、事業検証のアンケートの結果から、若者の考えを知ることが出来ました。そして、協働したまちづくりの在り方についてメンバーの意識醸成を図れました。



6月から11月例会に向けて新入会員のミーティングを始めました。第1回目のミーティングで、例会のテーマを「若者の地元離れ」に決めるものの、背景・目的を問い詰められたときに結果何をしたいのかが見えておらず、話し合いが進みませんでした。「テーマが固い、真面目すぎる」のような意見をいただくも、他の案で新入会員メンバーみんなが共感するものは出てきません。結局「若者の地元離れ」をテーマに背景・目的を考えますが、ころころ変わってしまい阿蘇室長に指導していただきながらの事業構築となりました。

ミーティングといっても集まって何をすべきなのかよくわからず、同じ内容の話し合いを繰り返し行ってしまいました。新入会員がまとまらず、意識がバラバラになってしまい、ミーティングの参加率が落ちてきてしまいました。いがみ合いや責任の擦り付け合いのような事も実際ありました。ですが、現役メンバーの皆様に応援の言葉・励ましの言葉・アドバイスをいただけたことで、大量の時間を費やしながらも、3歩進んで2歩下がるように少しずつ内容を詰めていくことができました。



9月に審議をいただき方向性が見えると、各自の作業が明確になり、全員に当事者意識が出てきました。徐々にまとまりを取り戻していきます。

形にできたのはスケジュール的にギリギリだった為、リハーサルをあまりすることが出来なかったという反省点が残ってしまいました。



これまで例会や事業に対して客観的だった新入会員が、11月例会をゼロから事業構築する事で、現役メンバーの皆様が例会や事業の設営面での苦労や想いを考えるようになりました。対内目的で掲げた若者との協働という意識醸成もそうですが、我々新入会員の意識変革といった大きな成果を得ることが出来たように思います。

11月例会を終えて・・・

感想

後藤正人君：自分なりに反省すべき点と、今振り返ってもどうすべきだったのかわからない事が多く、モヤモヤした感じというのが正直なところです。ですが、皆様に支えられ、励まされ、多くの学びをいただいたことに深く感謝しています。



佐藤真人君：テーマについて悩んだり、先が見えない会議の時などはとてもつらい時期もありましたが、方向性が決まり新入会員が一丸となって動きだし、苦しみを分かち合いながら一つになっていく時期は今まで経験したことの無い高揚でした。出来ることならもう一度・・・現役のメンバーの方々には大変感謝するとともに、とても大きな学びになりました。

千葉識子君：正直ずっと不安だったので無事終わる事が出来てほっとしています。今年度の新入会員は再入会したメンバーやフランス人、ヤンキーにお嬢様など本当に個性豊かで楽しかったです♪



佐藤翼君：完成するまで不安いっぱいでしたが、とりあえず無事に終わる事ができたのでよかったと思っています。リーダーの後藤さんには感謝しかありません。

丸山拓真君：無事に終わって良かった。

齋藤剛士君：二度目の11月例会でしたが、議案作成段階からなかなかMTGに参加できず、第一部と第三部の流れも把握しきれないまま、取材→まとめ→PPT制作→発表（シナリオ作成）に臨んだため、全体の流れに対して、第二部の内容をもっと充実できていたのではないかと終わってから感じました。例えば、「移住・定住」ひとつにしても、実際に移住してきた人へも取材を行って行政が掲げているものとの整合性を調査するなど、インタビューで高橋さんが伝えたかったことに対して補足することで、もっと伝わり方が違ったのかなと思いました。あとはもっと第二部メンバーだけでMTG以外にも懇親を深める機会をもう少し作って、もう一步踏み込んで自分たちがやりたいことを意見しあって突き詰めていってもよかったと思います。

はじめは、立場的に新入会員のみんなと馴染めるか不安でしたが、結果的にとても楽しかったです。真面目な時もたくさんあったけど、同期らしく腹を割って話したり、年齢関係なく対等に話せる絆ができてうれしかったです。

齋藤希望君：リーダー率いる同期メンバーに助けられて無事なきを得ました。例会が終わった瞬間、ほっとした感情もありましたが、同時に寂しさがこみ上げてきました。

佐藤美和君：事前の話し合い等では全員が揃う機会が少なかったのですが、最終的に大きなミスもなく終えることができ、本当によかったです。それぞれ事情があったと思いますが、それぞれに頑張った結果だと思っています。

小鷹舞君：例会が近づくにつれ、周りから巻き込んでいただいたように思う。議論の始めたてに比べて考えや意見を話しやすくなり、1部の原稿作成等に繋がられた。大変やりがいを感じた。



兒玉高幸君：ゼロからのスタートで大変な部分は多かったのですが最後はみんな一丸となれたと思います。

加藤謙君：例会を造ることの大変さと、人口減少の深刻さ、市町村の取り組みがわかった。色々な取り組みを知れた事が一番この取り組みの収穫だったと思う。

新田篤志君：自分の都合で限られた所しか協力できなかったが、当日は無事に例会を終える事、司会の役目を果たせて良かった。同期の結束や、先輩方の温かさを感じる事ができた。

阿部謙介君：協力して1つの事をやり遂げるといふ事の達成感を感じさせてもらった事に感謝しています。



齋藤拓也君：11月例会は特に大きなトラブルもなく、無事に遂げる事が出来て良かったただ振り返ると、もう少し手を加えたかった部分もあったので、今後活かしたい。

仮委員会配属の感想

後藤正人君：4月下旬から仮配属させていただきましたが、担当例会の後だったのでもっと早く入れていただき例会にかかわりたかった。また、8月で仮配属期間が終了だったので中途半端な感じがしました。

佐藤真人君：青年会議所の活動に関わっていく最初のスタンスを学びました。しかし最初から会議などの良い例を見すぎたため、11月例会の会議をする場面での自分の力の無さにつながりでした。制度自体はとても良いと思います。

千葉識子君：良い点→委員会になるべく参加する事を心掛けたことが溶け込むきっかけになり、メンバーと挨拶や会話をすることで学ぶ機会が沢山もらえた。悪い点→仮配属の終了時期が不明確であった。

齋藤希望君：参加できなかった。

佐藤翼君：酒田まつり、例会に参加させてもらいました。貴重な体験をさせてもらったし、11月例会にも少しは活かせたのかなと思います。まつり委員会の皆さんありがとうございました。

兒玉高幸君：面白い試みだったと思います。

佐藤美和君：JCの右も左もわからない中で、早速先輩方と一緒に事業を進めることができたのは、大きかったです。委員長はじめ、委員会メンバーの皆さんにもとてもよくして頂いて、感謝しています。

小鷹舞君：色々な方々と知り合えてよかった反面、自分の仕事の都合上、仮配属の委員会が多忙な時期に参加できないことも多く申し訳なく感じてしまった。

加藤譲君：積極的に関わる事をしなかったので、反省してます。

丸山拓真君：自分は何もしていないのでノーコメントで。

新田篤志君：参加できなかった。

齋藤剛士君：共存共栄みんなの山鉾委員会メンバーの皆様は、とても優しく温かい人たちばかりで、猿田彦完成のときの真剣な眼差しが印象的でした。宵祭りの点灯もやらせていただいてとても貴重な経験をさせていただきました。打ち上げもぜひ呼んでいただきたいです。先輩方は本当にカッコよかったです。

阿部謙介君：先輩を覚えるという点ではよいと思いますが、いまいち趣旨が理解できなかった気がします。

齋藤拓也君：入会時期が遅かったので、あまり仮配属の委員会に参加できなかった。

次年度に向け意気込み

後藤正人君：11月例会や仮配属を経て、自分の身の程を知りました。皆様にご迷惑をおかけしないか日々不安ですが、真面目に取り組む所存です。

佐藤真人君：目標になりえる先輩が沢山いますので、先輩方の背中を見て少しでも追いつけるように活動していきたいです。

千葉識子君：とにかく私には残り一年という時間しかないので出来る限り悔いの残らないJC活動を自分らしく楽しんで学んでいきたいです。

齋藤希望君：1年しかないので全力で楽しもうと思います。

佐藤翼君：まだまだ何もわからない状態ですが、日々色々なことを先輩方から吸収して、自分のスキルアップにつなげていきたいと思っています。

佐藤美和君：自分の任務を全うできるように努めたいと思います。

小鷹舞君：大変なこともあると思うが、委員会や同期、または委員会の垣根を超えて関わりあい、先輩方からご指導ご鞭撻いただきながら乗り越えていけるようにしたい。

兒玉高幸君：何ができるか模索しながらがんばります。

加藤譲君：皆さんの足を引っ張らないように与えられた役をこなして、自分からなるべく発言していけるように心がけて行きたいと思っています。

丸山拓真君：自分の成長に繋がられるようにやれることを確実にやる。

新田篤志君：運営幹事という役目もあるので、できる限り参加して、自分の意見もどんどん発言していきたい。

齋藤剛士君：来年度は青少年育成の担当委員長として、独創性あるアイデアから大矢次年度の掲げる所信の達成へと向かって、委員会メンバーとともに事業構築していきます。この地域の次代を担う子どもたちの意識が変わるように、大人になってターニングポイントになってしまうような、心に響く体験をさせてあげられるように一歩前へ進んで取り組んでいきます。

阿部謙介君：できる限り参加していきたい！

齋藤拓也君：できることから頑張ってみよう。



公益社団法人日本青年会議所 国際グループ国際アカデミー委員会 出向者報告

国際アカデミー委員会

後藤守総括幹事・太田さおり総括幹事補佐
榎引柳一広報幹事補佐・阿部修子
上村真美・佐々木大祐・城取良太 計7名

委員会紹介

開催経緯

JCI国際アカデミーは、1987年JCI世界会議（アムステルダム）でJCI公認行事として正式承認され、1988年から開始されました。JCIの追求する理想のプロジェクトアイデアと日本JCIがJCIへ加盟した1951年以來の「熱い思い」のこもった国際事業です。その背景には、第2次世界大戦終了後、日本青年会議所が主権を回復していない日本国より早い時期にJCIと言う国際社会へ復帰し、JC運動創始者であるHenry Giessenbier, Jr. が希求した「恒久的且つ永続的な世界平和」の実現に向け活動する「能動的な市民」の活動に触発され、国際社会への積極的な貢献をする事を決意したと言う事実があります。日本青年会議所は、1970年度JCI 会頭前田博氏を嚆矢として4人のJCI会頭を輩出する事で人的貢献を果たし、その一方で1971年から「青年の船事業」を開始し機会を提供（Development Opportunity）しました。「青年の船事業」は1988年度まで継続しましたが、一定の成果を挙げた事を確認し、同年1988年から、現在まで継続されているJCI国際アカデミー事業が開催されています。

目的

その主目的は、勿論、JC運動の最大の成果物である人材、リーダーの育成ですが、アカデミー事業で育ったリーダーが人的な相互理解に基いた国際的ネットワークとなり、それぞれの国でJC運動の究極的な目的に寄与する事です。その人材育成の為に、アカデミートレーニング期間中に、参加者は、それぞれの政治的、宗教的、民族的な背景を超え相互理解を深め、日本人、日本の文化を理解し、リーダーシップを涵養しJCIの理解を深めます。JCIのネットワークとなった卒業生は、それぞれの国に帰り、十分な自覚と責任をもってJC運動に邁進すべきです。その事がまさしく、日本JCIが、1951年以來希求してきた、国際平和への貢献に他なりません。



公益社団法人日本青年会議所 総務グループ共感デザイン構築会議 出向者報告

共感デザイン構築会議 大矢貴幸広報幹事 石川直紀 計2名

■事業実施に至る背景

社会に影響を与える運動や事業を市民におもしろく分かり易く発信することが、我々の運動の生み出す効果を最大限に発揮させ、国の未来を良いものに変える運動を展開することにつながります。戦略的かつ長期的な手法を組み合わせた広報の視点を持ち合わせ、運動の目的を考察した我々が、運動に共感していただいた市民を何事にも一歩踏み出す意識に変革し、共感を生むコミュニケーションを行い、市民に認知してもらうことが必要です。

■事業目的（対外）

共感を生むコミュニケーションを行い、我々の運動に対する社会的認知度を向上させることを目的とします。

■事業目的（対内）

我々の運動を多くのメンバーに認知してもらうことを目的とします。



実施項目

- 1) デジタル広報媒体を使用した広報活動
日本JC本会ホームページ
ニッポンサイコープロジェクト
日本JC公式Facebook
日本JC公式LINEアカウント
日本JC公式YouTubeチャンネル
日本JC各会議・委員会ホームページ
- 2) 日本JCメールマガジン
- 3) 日本JC機関誌 (WE BELIEVE)
- 4) 広報戦略会議
- 5) 広報幹事会議・セミナー
- 6) 各種広報媒体 (プレスリリース)
- 7) JCCS
- 8) 日本JC諸大会・各事業
- 9) 各協議会・各地会員会議所への相談窓口

共感デザイン構築会議 年間スケジュール

	広報幹事会議	広報戦略会議	全体会議	その他
1月	第1回/2月1日		第1回/22日(京都)	<京都会議> 1月21~24日 ○「創る広報」セミナー開催 ○取材及び広報活動 ○ブース設置による ニッポンサイコープロジェクトPR活動
2月	第2回/18日	第1回/5日	第2回/27日(立川)	
3月	第3回/10日	第2回/5日	第3回/26日(町田)	
4月	第4回/21日	第3回/5日	第4回/29日(名古屋)	<アジア・太平洋地域会議> 6月11~14日 ○取材及び広報活動
5月	第5回/19日	第4回/5日	第5回/21日(酒田)	
6月	第6回/18日	第5回/5日	第6回/25日(島田)	<サマーコンファレンス> 7月16~17日 ○吉本工業との提携及び報告 ○取材及び広報活動 ○ブース設置及び販促物による ニッポンサイコープロジェクトPR活動
7月	第7回/13日	第6回/5日	第7回/15日(横浜)	
8月	第8回/5日	第6.5回/5日	第8回/6日(京都)	
9月	第9回/15日	第7回/5日	第9回/24日(仙台)	<広島大会> 10月6~9日 ○取材及び広報活動
10月	第10回/20日	第8回/5日	第10回/7日(広島)	
11月		第9回/5日	第11回/26日(立川)	<世界会議> 10月30日~11月4日 ○取材及び広報活動
12月			第12回/3日(大阪)	



ニッポンサイコープロジェクト運営



青年会議所PR動画制作



吉本興業との提携



ビーチクリーンアクト運営



「創る広報」セミナー開催



各種広報活動

人間力

共感デザイン構築会議 石川直紀

「やっべーとこに来てしまった！！」日本青年会議所共感デザイン構築会議に出向し、初めての全体会議に出た第一印象がこれでした。なんせ自分は昨年入って、次第の読み方も分からず周りは経験豊富な人ばかり。しかし怖い印象とは違い回りの人が優しく分からないことも丁寧に教えてくれてなんとか無事に一年を終える事ができました。出向してからは全てが初めての事で、新たな知識や技術を得ることができましたが、何よりも自分の糧になったことは、**人間力を高めてくれる人**と出会えた事です。その人の考え方、プレゼンの仕方、さらには仕草一つひとつまで勉強になり、この人になりたいとすら思えました。確かに LOM においても自ずと経験値は高まると思います。しかし多くのモンスターみたいな人と出会い、共に活動することによりそのスピードは大きく違うと思います。自分自身どこまで人間力が上がったかはわかりません。ただ、自分が尊敬する人と出会いその人に少しでも近づけたのなら出向に行った価値はあると考えています。

あとその土地の名物は旨かったし、ある意味地獄のような二次会はめっちゃ楽しかったです（笑）



公益社団法人日本青年会議所 地域グループ地域連携委員会 出向者報告

地域連携委員会 加藤成 (地区推薦にて出向)

委員会紹介

地域連携委員会は、国際的に最も盛んなスポーツとされるサッカーを通して、地域の未来を担う子供たちに「グッドルーザーの精神」(＝たとえ勝負に負けたとしても相手を称えられる強く前向きな心)を伝え、道徳心を持った自立した人材を育みます。そして、大会を通じて地域間の交流人口を拡大し、人が行き交い活性化する地域の姿を目指す委員会です。全国各地でJ-Cカップを開催し地域間の交流人口を増加させるとともに地域活性化を促進させるサッカーの試合を通して、勝っても負けても相手を想いやるグッドルーザーの精神の普及を図り、次世代へ夢と希望溢れる人材の育成を目指していく委員会となっております。

事業報告

東北地区協議会よりJ-Cカップの担当として、日本J-Cの地域連携委員会へも出向いたしました。9月10・11日に大阪府堺市のJ-GREEN堺にて第2回J-CカップU-11少年少女サッカー全国大会が行われました。東北地区代表として宮城県のベガルタ仙台ジュニアが出場し、12チーム中9位という結果でした。全国から集まった選手たちは試合を通して、相手を思いやるグッドルーザーの精神を学びながら、全国各地の選手との交流を深め、自分達の地域と他地域との違いを学び、短い期間でも多くの学びを得て成長していきました。



東北地区協議会

顧問	小野寺 正人
東北コミュニティ委員会	加藤 成・阿曾 義剛・齋藤 高寛・設楽 稔
東北ゼミナール委員会	佐藤 和明
東北青年フォーラム運営委員会	阿部修子

東北コミュニティ委員会

委員会紹介

東北コミュニティ確立委員会は、東北人の大切にしている結の精神とともに、次世代へ夢と希望溢れる東北を導くことができる新しい広域的なつながりを確立することを目指して以下の3本柱の事業を行ってまいりました。

- 1、輝く東北を実現するために、2010年代運動指針と自立した新東北再建ビジョンを軌道修正して発信することで、77LOMの方向性を一つとします。
- 2、東北の価値を高めるために、東北の魅力を一体となって生かす機会を創造し、結の精神を掲げた東北ブランドの事業展開を推進します。
- 3、道徳心ある自立した人材を育むために、JCカップ東北地区予選大会を開催して青少年にグッドルーザーの精神を伝え、相手を思いやる心を育みます。

事業報告

東北コミュニティの確立へ向けて、以下の通り今年度委員会活動を行いました。

1、東北青年フォーラムin水の里とめファンクション東北の未来パワーセッションでは、東北の未来について委員会が考えた指針をプレゼンテーションし、東北地区会長御三方より東北の未来についての想いを熱く語って頂きました。そして、11月に2010年代東北JC運動指針並びに「自立した新東北」再建ビジョン改訂版を策定する東北を策定し、冊子と要約版パンフレットを77LOMに配布しました。

2、東北ブランド確立事業として、Facebookページ「結の里東北 ここには残したいがある」を立ち上げ、結の精神が満ち溢れるコミュニティが表現されている風景や、まつりなどを投稿していただき、東北市民へ向けて結の精神が東北の独自性を持ったアイデンティティとして盛り上げていくべきであることを発信して行きました。

3、JCカップU-11少年少女サッカー大会東北地区予選大会を開催し、東北6県より選出されたチームによるトーナメント戦を7月31日に庄内空港隣衝緑地にて行いました。東北各地の代表としての誇りを胸に地域間の交流を図りながら、サッカーを通して相手を思いやる気持ちを子どもたちに育んでいただきました。

東北ゼミナール委員会

委員会紹介

「無限の可能性を信じ未来を切り拓く人材の育成」をテーマに、2月仙台の開校式では地域を輝かせる真のリーダーの育成を、3月大館では東北JCの一員であることの自覚を、4月原町ではプロセス構築を学び、5月盛岡では地域資源のあらゆる可能性を探り、6月米沢では中長期的ビジョンの共有を図り、7月八戸で地域社会を牽引する気概と覚悟を持ち、9月閉校式で研究成果の発表を行いました。

事業報告

東北ゼミナール委員会では、2月の開校式以来、「無限の可能性を信じ未来を切り拓く人材の育成」に取り組んでまいりました。計5回の講座を通して、次世代へ夢と希望溢れる東北の実現に向け、そして地域を輝かせる真のリーダーになるべく、次世代へつなげる「自立した新東北」のビジョンについて考えてまいりました。東北ゼミナール委員会の5回の講座を通して、ゼミ生が新たな無限の可能性を信じ未来を切り拓く人材として羽ばたいていく決意を示し、各地のリーダーとして成長を遂げて行きました。

東北青年フォーラム運営委員会

委員会紹介

東北青年フォーラムin水の里とめでは、東北6県77委員会議所会員が手を取り合い、東北地区協議会のネットワークを活かしながら、運動を発信する最大の場として、市民の皆様と共に未来を考える機会から「東北は一つ」を実感できる大会を作り上げる委員会です。大会を通して、開催地の風土や先人たちの想いを知り、人々とのふれあいによって、風光明媚な自然が織りなす歴史情緒あふれる文化から生み出された多くの地域資源を体感し、郷土愛の醸成と故郷をより良くする想いを高め、未来を見据え地域を再興に積極的に取り組む意識変革から東北各地へ運動を広げ、次世代へ夢と希望溢れる東北を実現していく大会を作り上げていく委員会です。

事業報告

今年度の東北青年フォーラムin水の里とめは9月2日～4日に宮城県登米市で行われました。大会登録は東北77LOMより1900名に上り、東北地区協議会の最大の発信の場となりました。4つの委員会が各ファンクションを担当し、今年度大泉会長の掲げる次世代へ夢と希望溢れる東北の実現に向けた運動を発信しました。酒田JCからも40名を超える大会参加をいただきました。来年は岩手県奥州市水沢区で東北青年フォーラムin奥州が行われますので、多くのメンバーで参加しましょう！！

東北ビジョン創造委員会

委員会紹介

東日本大震災により甚大な被害を受けた東北は、地域の復興に向けて着実に歩みを進めていますが、毎年自然災害が各地を襲い被害をもたらしている状況下で、非常事態に対応できる基盤づくりが喫緊の課題です。これまで幾多の天災と時代の変革期を乗り越え未来を切り拓いてきた先人の知恵を受け継ぐ我々は、これまでの災害とその復興過程から学んだ経験を未来へとつなげ、防災先進地域としての魅力ある東北を創造していく委員会です。

事業報告

東北ビジョン創造委員会では、TADSネットの運用を行って東北での台風による災害が起こった際の迅速な情報発信・復旧への支援などを行いました。フォーラムでは、東北ビジョン創造シンポジウムでメンバーに対し、防災面での地域のリーダーとしての意識喚起を行いました。未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～では東北各地の子どもたちより未来へつなぐメッセージを合意したとき、人々の記憶と想いをつなぎ、希望を持って大切に生きていく気持ちを子どもたちに育んでいただくということを発信いたしました。

山形ブロック協議会

直前会長	小野寺 正人
副会長 (第1エリア)	若村 光司
アカデミー委員会	高橋 了・佐藤 拓也・和島 公太 阿部 拓也・阿部 努・石川 雄一 石倉 正幸・小林 志季・佐藤 梓 佐藤 瞬・佐藤 純・佐藤 佳輔 佐藤 貴伸 菅原 卓・田中 新 早坂 舞・原 義典・堀 伸・山口 彰
当事者意識醸成 委員会	徳田 佳奈
ブロック大会運営 委員会	佐藤 浩和
やまがた協働運動 実践委員会	井畑 淳一
組織進化実践 会議	佐藤 愛・茜谷 雅人
事務局	庄司 健

山形ブロック協議会

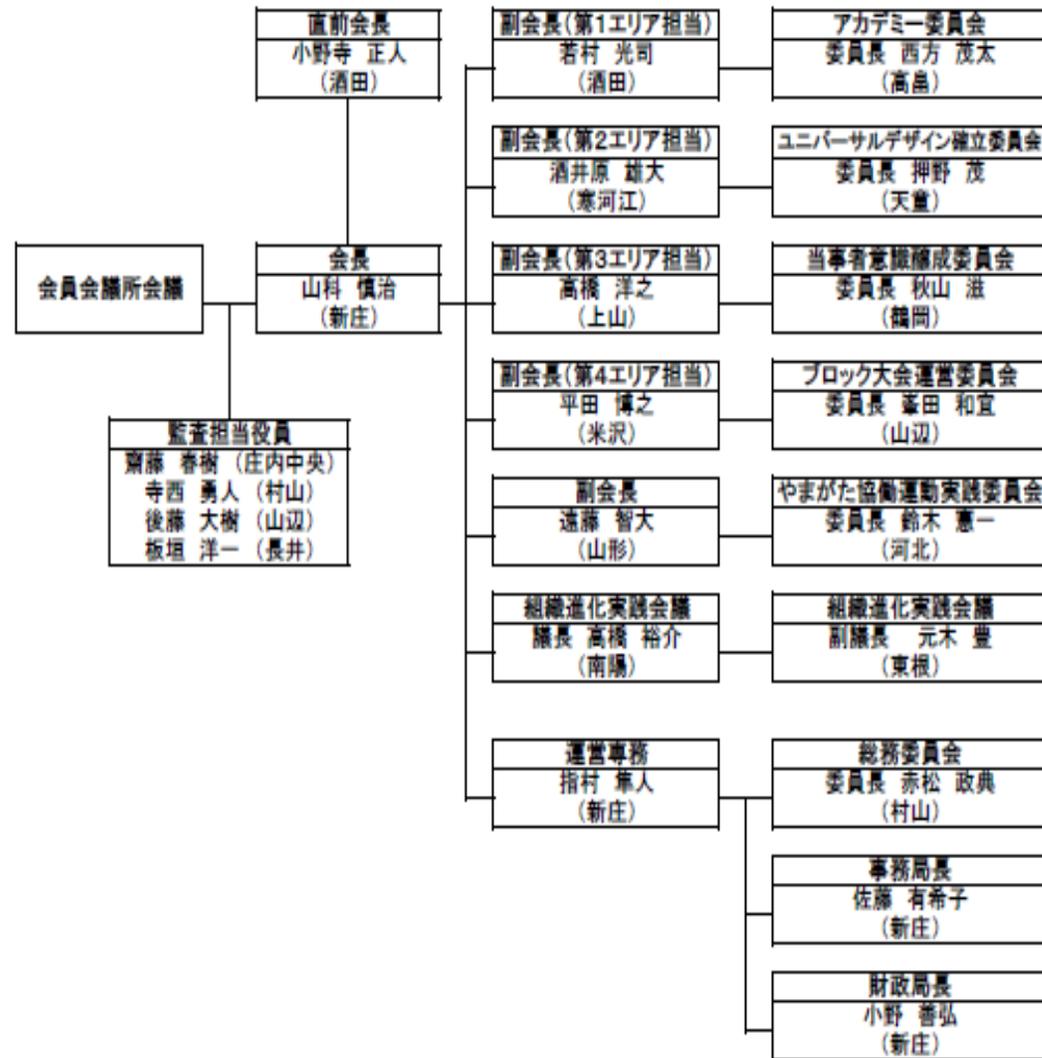
次世代へつなぐ夢と希望溢れるやまがたの実現

事業計画

1. 本会の事業・運動の推進
2. 会員増強の支援
3. 発災時の情報伝達網と支援体制の構築
4. 郷土愛を育む県民参加型協働運動の実施
5. 魅力ある地域を創造する人材の育成
6. やまがたの未来を描く県民先導のまちづくり事業の実施
7. 対外発信力の強化に向けた取り組み
8. 【ブロ連】国民の憲法に対する意思を確立する事業の実施
9. 【ブロ連】共感経済社会の実現に向けた運動推進
10. 【ブロ連】「未来へつなぐプロジェクト
～音楽のちから～」の推進



公益社団法人 日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会 2016年度 組織図



会員会議所理事長		
公益社団法人山形青年会議所 井上 智博 君	一般社団法人山辺青年会議所 鈴木 義人 君	
公益社団法人米沢青年会議所 加藤 剛士 君	公益社団法人上山青年会議所 萩生田 祐司 君	
公益社団法人新庄青年会議所 高樫 宏一 君	公益社団法人村山青年会議所 星川 務 君	
公益社団法人長井青年会議所 井上 典嗣 君	一般社団法人東根青年会議所 高橋 健吾 君	
公益社団法人酒田青年会議所 阿部 喜明 君	河北青年会議所 布川 潤一 君	
公益社団法人鶴岡青年会議所 渡部 志津 君	一般社団法人高島青年会議所 井田 和史 君	
一般社団法人南陽青年会議所 菊地 陽一 君	一般社団法人尾花沢青年会議所 永井 歩夢 君	
公益社団法人寒河江青年会議所 股栗 厚彦 君	一般社団法人庄内中央青年会議所 渡会 修 君	
公益社団法人天童青年会議所 鈴木 琢也 君		

事務局補佐 児玉 光平 (新庄)	事務局補佐 堀 正行 (第1エリア)	事務局補佐 大沼 陽輔 (第2エリア)
事務局補佐 大場 慎也 (新庄)	事務局補佐 遠藤 環 (第3エリア)	事務局補佐 香取 洋平 (第4エリア)

アカデミー委員会

事業計画

1. 地域資源を生かしたプログラムの策定
2. 冒険心と起業家精神を醸成した人材の育成
3. LOMの新入会員セミナーに関する支援
4. 本会の運動の発信を取り入れた事業

事業報告

- ・ 開校式
- ・ 第1回～第6回プログラムの実施
- ・ 閉校式



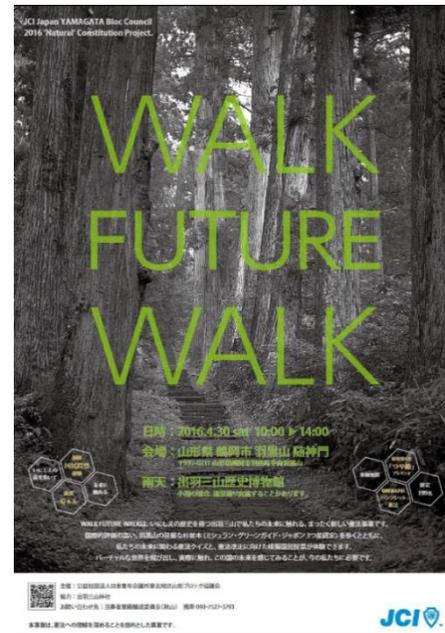
当事者意識醸成委員会

事業計画

1. 政策本位の政治選択が国民に浸透する仕組みの構築
2. 国民の憲法に対する意思を確立する事業の実施

事業報告

- ・ 憲法事業「ウォーク・フューチャー・ウォーク」
- ・ 国政選挙における公開討論会の実施
- ・ ウォーク・フューチャー・ウォーク inかみのやま



ブロック大会運営委員会

事業計画

1. 青年会議所運動に関する意識を昂揚させる
ブロック大会の企画・運営・実施
2. 開催地をはじめとした県内の地域発展に資する
ブロック大会の運営
3. 次世代につなぐ山形ブロック大会の方針の検討

事業報告

- ・ブロック大会かみのやま大会の実施
- ・ブロック大会かみのやま大会 大会式典
- ・ブロック大会かみのやま大会地域活性化からいち
- ・ブロック大会かみのやま大会グランドフィナーレ

やまがた協働運動実践委員会

事業計画

1. 山形ブロック協議会がLOMと実践する協働運動に関する事項
2. 世界に貢献する日本人の育成
3. 日本青年会議所が協議会と実施する連携推進運動に関する事項

事業報告

- ・ふるさとOMOIYARIプロジェクト2016
- ・JCカップU-11 少年少女サッカー山形県予選大会
- ・国際人としての正しい建国の歴史を知るための事
- ・世界に貢献する人材の育成と世界の中の日本を知る

組織進化実践会議

事業計画

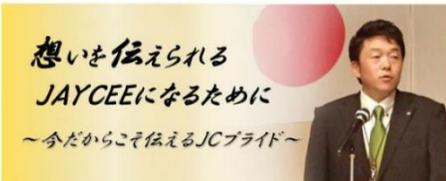
1. 組織進化のため行動
2. 地域活力と組織力の向上に向けた会員拡大の支援
3. 対外発信力の強化に向けた取り組み
4. 山形ブロック協議会50周年に向けた取り組み

事業報告

- ・「想いを伝えられるJAYCEEになるために」セミナー
- ・HPへFBによるJC運動の発信
- ・ブロック大会かみのやま大会 情報発信力向上セミナー
- ・2016年度アニュアルレポートミーティング

公益社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会

JCI 2016年度会員資質向上セミナー



講師：菊地 弘樹 先輩 公益社団法人江刺青年会議所OB
2008年度若手ブロック協議会 会長・2009年度東北地区協議会 会長
日時：平成28年3月23日(水) 18:00～19:50
受付17:30～(事前申し込みをいただきますが、当日の参加受付も可能です。)
(当日はセミナー開催前にユニバーサルデザイン委員会にて事業がございます。)

場所：ほほえみの宿 滝の湯 「舞鶴の間」
住所：天童市鎌田本町一丁目1番30号

主催：公益社団法人日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会
問合せ先：組織進化実践会議 副議長 元木 豊
TEL:090-7522-2134



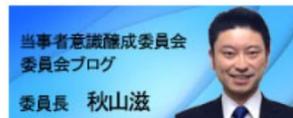
山形ブロック協議会
会長ブログ
会長 山科慎治



アカデミー委員会
委員会ブログ
委員長 西方茂太



ユニバーサルデザイン
確立委員会ブログ
委員長 押野茂



当事者意識醸成委員会
委員会ブログ
委員長 秋山滋



ブロック大会運営委員会
委員会ブログ

事務局

事業計画

1. 山形ブロック協議会の効率的な運営・発信
2. 協議会全体をみた効率的な運営
3. 災害時の緊急対応に関する事項

事業報告

- ・新春交換会・ブロック卒業式
- ・諸会議の運営
- ・本会・地区・各LOMの情報共有

